

追加第二條 未丁年ノ外國人ハ後見ヲ外國ニ於テ附シタル時ト雖モ
 本律第三章第一款第一節ニ掲ケル場合ニ於テ其規定ニ因リ白耳義
 在ル其後見人ノ財産ニ付キ法律上ノ書入質權ヲ有スヘシ
 外國人ノ妻ハ外國ニ於テ結婚シタル者ト雖モ同章第一款第三節ニ
 掲ケル場合ニ於テ其規定ニ因リ白耳義ニ在ル其夫ノ財産ニ付キ法律
 上ノ書入質權ヲ有スヘシ
 記入ヲ外國ニ移リタル證書ニ本律ヲ爲シタル其記入ハ本律第
 七十七條ニ因リ財産所在地ノ裁判所ニ長ク檢印シタル後ニ非ズ
 爲スヲ得ス
 追加第三條 假管理者ノ財産ニ付キ一定ノ金高ヲ限リトシテ書入質
 權ヲ立ルカ爲メ一千八百五十年六月十八日法律第三十九條ニ因
 リ民事裁判所ニ與ヘタル權理ハ假管理者ノ意見ヲ聽キ又ハ召喚ノ
 上親族會議ニ於テ行フヘシ議決ハ本律第四十九條ニ因リ第五十
 一條ニ故障ヲ受ルコアルヘシ

右布告ス

一千八百五十一年十二月十六日ロンドンニ於テス

レナホルド

奉勅

司法大臣 ヴァントルテスシ署名

農業貸附金規則

一千八百八十四年四月十五日ノ法律、勅令、規則、確形等

目次

記事

一千八百八十四年四月十五日ノ法律

規則

利息額ノ決定

五月一日ノ勅令

金銀扱所諸員間ノ契約書

貯金局ト金銀扱所トノ間ノ條約書

書入質ノ契約書

質入ノ契約書

參考表

附書

貸附契約

償還證書表

償還證書ノ領收書表

記事

農業貸附金

一千八百八十三年十二月立法院ニ於テ可決シタル農業貸附金ニ係ル法律ハ一千八百八十四年四月十五日ヲ以テ布告シ五月十一日ノモニトール(新題)ヲ以テ公ニセラレ之ト共ニ他ノ法規モ亦公ニセラレタリ其一ハ農業貸附金ヲ貯金總部局ニ於テ取扱フ規則ヲ定メタルモノニシテ他ノ一ハ其貸金ノ利息ヲ百ニ四分ト定メタルモノナリ此ノ法律ハ農業上債主ノ特典ヲ設ケタルモノニシテ貸附人ニハ其資本ニ十分ナル安全ヲ與ヘ借受人ニハ低廉ナル利息ヲ以テ資本ヲ得ルノ方法ヲ與フルヲ殊ニ目的トスルモノナリ又肥料種子畜獸改良機械等ノ購入ニ因リ

精約耕作法タル可キ農業ノ產出ニ最大ノ利益アリトス夫レ負債ノ事ニ於ケル農作者ノ偏見ハ人ノ知所ニシテ貸金ノ借入ハ農作者ヨリ見レハ常ニ公然顯シ可カラサル所ノ不長ノ方法ナルカ如シ然レモ新法ニ因リ此事ニ係ル農作者ノ思考ヲ改メ其貸附人ニ信ヲ措シメ因テ巨額ノ資本ヲ得ルノ一事ハ農業者タルモノ、爲ニ名譽ナルコトヲ理解セシメシコト望ム可キナリ抑テ資本ヲ徒費スルニ非ス又思慮ナク契約シタル負債ヲ消却スルカ爲ニ非スシテ却テ己カ耕ス所ノ地味ヲ改良シ其收穫ヲ増シ因テハ一般ノ利益ノ増殖ヲ助成スル爲メニ借入ル、所ノモノニ在テハ事ヲ秘密ニスルノ理ハ毫モ非ルナリ公然金ヲ借入レ商人ノ如ク其信用ノ最モ大ニシテ且ツ厚ケレハ益々傲然タルヲ得可シ

本律ハ政府ノ保證ヲ以テ設立シタル貯金局ニ許スニ資本ヲ農業ニ供給スルコトヲ以テスルモノナリ其他立法者ハ何レノ會社又ハ何人ヨリスルヲ論セス凡ソ貸附ニ新ナル保證ヲ設ケタリ財務ニ係ル會社ハ貯

金局ヨリ供給スル所ノ約束ヨリモ利益アル約束ヲ以テ農業者ニ立替
 ヲ爲スヲ得ス
 利息ハ世間ノ貸借ニ基テ定ム可キハ必定ナリ近時其利息ハ低廉ニシ
 テ且ツ大概近々ノ中ニハ再ヒ登ルノ景況ナキカ故ニ總會議ニ於テハ
 農業上債主ノ特典ニ因テ保證シタル貸附金ノ利息ヲ百ニ四分ト定ム
 ルヲ得タリ其四分ノ三ハ貯金局ニ於テ收入ス可キモトス(是レ一萬
 二千法ニ越エサル預リ金ニ付キ生スル不足ヲ補フ所ノ利息ノ額ニ當
 ルモノトス)四分ノ一ハ下ニ言フ如ク貸金返済ノ保證ニ供スルモノナリ
 貸附ノ期限ハ借入資本ノ用途ニ從テ異同アリ負債主ノ望ニ因リ一時
 又ハ年賦ヲ以テ返済スヘシ貯金局ノ承諾ス可キ農業貸附金ヲ取扱フ
 ノ機關タルモノハ金錢扱所トス抑々金錢扱所ハ貯金局ト借主トノ仲
 介者タル結社ニシテ貯金局ニ對シテハ貸金返済ノ保證人ナリ其所員
 ハ該局ニ對シ連帶シテ責ニ任シ其業務ノ大小ニ應シ保證物ヲ其局ニ
 入レザル可カラズ其保證物ハ株券類ノ書入質又ハ質入トス金錢扱所

ニハ其保證ニ對シ手當トシテ借主ヨリ利息トシテ拂入グル金額ノ一
 部ヲ給與スルモノトス此一部トハ業務收入ノ四分ノ一ナルハ金錢
 扱所々員ハ貯金局ニ對シテハ有要ナル地方ノ出張員ニシテ農作者ハ
 貸借ヲ商議スル爲メ之ニ申込ヲ爲ス可シ契約ノ決定シタルトキハ其
 出張員ハ借主ノ事業ノ進歩ト質入物ノ保存ヲ監督ス可キモノトス
 農業貸附金錢扱所ノ其業ヲ開テ大ニ効アルヘキ悉皆ノ地方ニ設立ス
 ルモノハ同一ノ業務ヲ營ム許可ヲ得タル國立銀行ノ割引金錢扱所ニ
 於テ常ニ農業者ニ立替金ヲ爲ス可シ
 貸附ハ割引手形ヲ以テスルカ又ハ農業上債主ノ特權ヲ保證トシ貸借
 契約ヲ以テスルナリ又借主ノ返金スヘキヲ確實ニシテ特別ナル書入
 質又ハ質入ヲ爲スルハ其保證ナクモ貸借契約ヲ結フヲ得ヘシ
 本律ヲ以テ許可スル所ノ農業上債主ノ特權ハ自存ノ權理ニアラス故
 ニ登記局ニ於テスル記入ノ法式ニ從ハサル可カラズ此法式ハ獨リ貯
 金局ヨリ爲ス所ノ立替金ノ爲メニ定メタルモノニ非ス凡ソ貸附ヲ爲

スモノハ皆之ニ因ルヲ得可シ此ノ債主ノ特權ハ土地所有主ニ其借地料ノ拂込ノ保證タル物件即チ其年々收穫小作地ニ在ル物件及其耕作ニ要スル物件ノ價ヲ目的トスルモノニシテ土地所有主ノ債主タル特權ハ其所有主ヨリ順番チ貸附人ニ讓ラサル以上ハ其貸附人ヨリ先番ニシテモノナリ貸附ノ證書ハ債主ノ特權ニ附シタル物件ノ性質及價格ヲ示スヲ要ス以テモ其債主ノ特權ニ關シテ其借主ハ貸主ニ對シ毎年其期限ノ三ヶ月以内ニ借地料ヲ拂込ミタルニ去證明スヘキモノトス然ラバ本利ノ利益ヲ得ルニ權夫失スルニ利息ノ拂込及貸附ケタル元金ノ償還ハ期限トスル日ニ於テ執行セラル可ラス抑々契約履行ノ精密ニシテ不規則ナラサルニハ信用ヲ得ルニ缺ク可クナルモノナリ

凡シ金錢扱所ニ於テ貸附ノ請求ハ特ニ借主ノ徳義及實力ヲ以テ農業上債主ノ特權ニ附スル物件ノ性質及價格ヲ目的トシタル參考表ヲ添附スルモノトス

農業貸附金錢扱所ハ債主ノ特權ヲ以テ保證スル貸附ニ關スル書類ノ保存ニ付テハ登記收稅官ノ協力ヲ請求スルヲ得

借主ハ貯金局ノ預リ通帳ヲ以テ債主ノ特權ヲ記入シタル登記局ニ二十法ヨリ少カラサル金額ヲ預ケ入レハ信用貸ノ業務ニ依ラサルモノナリ過剩アレハ其通帳ハ通例ノ貯金局ニ預ケ入レノ規則ニ因ルヘシ

預ケ人ハ其預ケ金ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ受ケ貸附金全額ノ償還ニ定メタル日マテ再ヒ預ケ入レヲ爲スヲ得ヘシ其日ニ預ケ金ヲ受ケ戻サハルキハ其金額ハ貯金局ノ通常ノ業務ヲ取り扱フ所ニシテ通帳記名人ノ指定シタル局ニ移スモノトス

一千八百八十四年四月十五日ノ法律
白耳義國王レテポルト第二世ハ
議院ノ議決ヲ取り左ノ法律ヲ裁可ス
第一章 農業貸附金錢扱所
第一條 貯金養老金總部局ハ其用途ナキ資金ノ一部ヲ農業者ノ貸附
ニ使用スルヲ得
其貸附金ハ方法ト期限トニ因リ貯金局ト假定使用又ハ確定使用ト
見做シ必要アリト認ムル地方ニ設置スル金錢扱所ヲシテ取扱ハシ
第二條 貯金局ノ總會議ハ貸附金ノ利息及規定並ニ金錢扱所ノ組織
又ハ貸附金取扱允許ノ規定ヲ設クヘ
此件ニ係ル其議決及其金錢扱所ノ結フ所ノ條約ハ大藏大臣ノ認可
ヲ受クヘキモノトス

一千八百八十四年四月十五日ノ法律
白耳義國王レテポルト第二世ハ
議院ノ議決ヲ取り左ノ法律ヲ裁可ス
第一章 農業貸附金錢扱所
第一條 貯金養老金總部局ハ其用途ナキ資金ノ一部ヲ農業者ノ貸附
ニ使用スルヲ得
其貸附金ハ方法ト期限トニ因リ貯金局ト假定使用又ハ確定使用ト
見做シ必要アリト認ムル地方ニ設置スル金錢扱所ヲシテ取扱ハシ
第二條 貯金局ノ總會議ハ貸附金ノ利息及規定並ニ金錢扱所ノ組織
又ハ貸附金取扱允許ノ規定ヲ設クヘ
此件ニ係ル其議決及其金錢扱所ノ結フ所ノ條約ハ大藏大臣ノ認可
ヲ受クヘキモノトス

第三條 期限ニ至テ負債ノ償還ナキハ金錢扱所ヨリ出ダシタル質
 入品ノ處分ハ一千八百七十二年五月五日ノ法律第四條乃至第九條
 照準シテ手續ヲ爲スヘシ
 但要求書ハ始審裁判所長ニ向テ出ダスルキモノトス該裁判所長
 命令ノ故障ヲ裁決シテ其通知ヲ民事書記局ニ爲スヘシ
 第二章 農業上債主ノ特權
 第四條 農業者ニ爲ス貸附ハ證書中ニ明記シ一千八百五十二年十
 二月十六日ノ法律第二十條ニ因リ貸地主ノ債主タル特權ニ附シテ
 物件ヲ目的トセル債主ノ特權ヲ以テ保證トスルモノトシ
 證書ニハ債主ノ特權ニ附シタル物件ノ性質及價格ヲ示スヘキモノ
 トス
 第五條 貸附主ノ其債主タル特權ヲ保有センニハ登記收稅官ノ保管
 スル特別ノ簿冊ニ記入シテ之ヲ公然タラシムヘシ
 記入ノ日附ヲ以テ債主ノ特權アルモノトシ其順序ヲ定ム

第六條 記入ハ其日附ノ日ヨリ十箇年間債主ノ特權ヲ保存スルモノ
 トス此期限満タル後ハ再ヒ記入ヲ爲サレハ其効消滅スヘシ
 第七條 記入ハ貸主ニ先取ノ權及追及ノ權ヲ確證スルモノトス
 追及ノ權ハ一千八百五十一年十二月十六日ノ法律第二十條第一項
 照準シテ行フヘシ
 第八條 貸地主ハ其順序ヲ貸附主ニ讓ラサレハ其先番タルヘシ
 貸附金ヲ以テ貸地主ヨリ先番ニ在ル債主ニ償還ヲ爲ス場合ニ於テ
 ハ貸附主ハ代テ其債主ノ權理ヲ有シ一千八百五十一年十二月十六
 日ノ法律ヲ以テ定メタル規則ニ因リ貸地主ノ先番トス
 其權理ノ代有ハ貸附證書ニ貸金ノ用途ヲ示シ其ノ使用ヲ領收者ノ
 領收證ニ因テ證明ノ上爲スヘキモノトス
 第九條 貸地主ハ借地料ノ期限ヲ過キタル三年及本年ト家屋ノ修繕
 及耕作ニ付キ借地主ノ義務ヲ盡キタル損害ニ當ル賠償トニ非レハ
 債主タル特權ヲ有スルヲ得ス

第十條 借主ハ請求ヲ受シレハ期限ヨリ三ヶ月以内ニ借地料ヲ支拂
タルコトヲ毎年證明スヘキモノトス其請求ニ應ゼザレハ本期ノ利益
ヲ失フヘシ

凡ソ貸附主ハ領收證書ヲ交付シテ借地主ノ還償證書ヲ取り置クヲ
得且ツ之ヲ保存シ他ノ關係者ヨリ請求アレハ示スノ義務アルモノ
トス

第十一條 借地證書ヲ以テカ又ハ借地條約期限ノ間貸附金ヲ爲シタ
ル土地所有主ニテハ債主タル特權ヲ有セント欲スルハ本律ノ規
定ニ遵フヘシ

第十二條 所有主自ラ其土地ヲ耕スル之ニ貸附ヲ爲スニハ本律ニ定
ムル所ノ規定ニ因リ農業上債主ノ特權ヲ附スヘシ
貸附主ハ用法的不動産ト認ムル動産ノ物件並ニ植附ケアル收穫物
及未ダ摘採セザル葉實ニ付テ其權ヲ行フ
其貸附主ハ己レヨリ先キニ記入シタル書入質シ債主ヨリ先番タル

ヲ得ス其記入ノ己レヨリ後ニアル債主ヨリハ先番ナリトス
貸附金ヲ書入質債主ヨリモ先取ノ權アル債主ノ償還ニ使用シタル
キハ貸附主ハ代テ其權ヲ有ス
其代有ハ第八條ニ掲グル所ノ規定ニ因ル

第十三條 一定ノ金額ニ因リ信用貸ヲ以テスル貸附ハ本律ノ定ムル
所ニ從ヒ契約上ナル債主ノ特權アルモノトス其特權ハ適法ノ方法
ヲ以テスル資金交付ノ順次ノ時期ニ拘ハラズ記入ノ日附ヲ以テ順
番ヲ定ム

第十四條 貸附主ハ訴訟法ニ因リ貸地主ノ權理施行ニ定メタル執行
手續ヲ以テ其權理ヲ行フモノトス

第三章 債主特權ノ記入及抹殺

第十五條 債主特權ノ記入ハ借地ニ建テタル屋舎所在地ヲ管轄スル
登記局ニ於テスルモノトス
數局アル都府ニ於テハ勅令ヲ以テ記入ヲ爲スヘキ局ヲ指定スヘシ

白耳義國取調書 第十三號

第十六條 記入簿冊ハ第一及最終ト番號ヲ附シ治安裁判所判事毎業ニ署名花押スルモノトス收税官ノ毎日之ヲ終結スヘキハ證書登記ノ簿冊ニ同シ

第十七條 債主及負債主ノ姓名職業住居ヲ記入シタル貸附證書又ハ信用貸證書ハ收税官ニ出ダシテ登記ヲ請フヘシ收税官ハ其全文ヲ之レカ爲メ備ヘタル簿冊ニ登記スルモノトス

收税官ハ記入ヲ請述ノ通り爲セルヲ證明シ日附冊號番號ヲ附シテ證書ヲ還付スヘシ

第十八條 農業上債主ノ特權ヲ以テ保證シタル債權ノ譲リ渡又ハ其代有ノ第三者ニ對シテ其効力ヲ生スルニハ前律ニ因テ記入スヘキモノトス收税官ハ最初ノ記入ニ對スル餘白部ニ其記載ヲ爲スヘシ

第十九條 記入ノ關係者雙方又ハ其權アル者ノ承諾ヲ以テカ又ハ終審ノ裁判或ハ既決事件ノ力ヲ經タル裁判ニ因リ抹殺又ハ減殺スヘキモノトス

第二十條 權理ノ讓渡又ハ代有ノ證書或ハ債主ノ特權除去ニ係ル證書ノ私ノ證書ナルトハ其記入ノ効アル債主ノ特權ヲ生スヘキ契約書ヲ收税官ニ出ダスヘシ收税官ハ權理讓渡代有又ハ記入ノ一部若シハ全部抹殺ノ記載ヲ爲スヘシ

證書ハ其以前ニ登記スヘキモノトス

第二十一條 登記收税官ハ請求者アレハ其請求書中ニ指名スル人ノ負擔タル記入ノ寫本又ハ記入ナキヲ證明スル證書ヲ交付スヘキモノトス

第二十二條 一千八百五十一年十二月十六日ノ法律第八十一條第八十五條第八十六條第八十七條第九十一條第九十三條第九十四條第九十五條第百八條第百二十八條及第三百三十四條ノ規定中抵觸セサルモノハ農業上債主ノ特權ニモ適用スヘシ

第二十三條 收税官ニハ左ノ各項ニ付一法ヲ支拂フヘシ

第一 記入毎件

第二 記入ノ抹殺又ハ減殺
 第三 記入ノ寫本
 第四 記入ナキヲ證明スル證書
 第四章 登記税及其印紙税
 第二十四條 貯金總部局ト農業貸附金錢取扱所諸員トノ間ノ契約ハ無税ニテ登記スヘシ
 第二十五條 農業上債主ノ特權ヨリ他ノ保證ナキ貸附及信用貸並ニ之ニ係ル債權ノ讓渡ハ最初ノ契約ヲ一年以上ニ定メタルキハ百法ニ付キ六十五參ノ登記税又其一年以下ナルキハ百法ニ付キ三十參ノ登記税ヲ納ムヘシ
 貸附タル金額ノ償還證書ハ百法ニ付キ三十參ノ税ヲ納ムヘシ
 信用貸主ヨリ借主ニ交付スル金額ノ認檢證書ハ印紙税及登記税ヲ免ス
 第二十六條 記入特別簿冊ハ印紙税ヲ免ス

雜則

第九條 本律施行前ニ確實ナル日附ヲ得タル證書所有ノ貸地主ニ適用ス可ラス
 右布告ス云々

一千八百八十四年四月十五日比律悉ニ於テ

レナボルド

奉勅

大藏大臣 シヤル、グロ、署名
 司法大臣 ヲユール、ハラ、署名

檢核シテ國璽ヲ捺ス

農業貸附ニ係ル法律第一章ノ施行規則

貯金養老金總部局ノ總會議ハ

用途ナキ資本ノ一部ヲ農業者ノ貸附ニ使用スルコト貯金養老金總部局ニ許スニ係ル一千八百十四年四月十五日ノ法律ヲ檢核シ貸附ノ規定並ニ金錢扱所ノ組織及貸附金取扱允許ノ規定ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘキモノト認メ理事會議ノ申請ニ依リ

決定ス

第一章 金錢扱所及其責任

第一條 一千八百八十四年四月十五日ノ法律第一條ニ因リ農業者ニ爲ス所ノ貸附又ハ立替ハ割引手形ヲ以テ貯金局ノ爲メニ農業上債主ノ特權ヲ以テスル直接ノ保證ナキキハ假定使用ト見做スヘシ其他ノ貸附及立替ハ確定使用ト見做スモノトス此二種ノ貸附ハ國立銀行ノ支店又ハ合名會社ノ組織及規定ニ依テ

設立セル特別ノ金銭扱所即チ農業貸附金銭扱所ヲ經テ爲スヘキモノトス

假定使用ハ現行ノ規則ニ依ル

確定使用ハ本律第二章ニ從フ

第二條 農業金銭扱所ニ於テ其集會ノ位置ヲ登記局ノ設置アル地ニ定メタルキハ農業上債主ノ特權ヲ以テ保證スル貸附ニ係ル書類保存ノ爲メ收稅官ノ協力ヲ請求スルヲ得此場合ニ於テハ集會ハ收稅官ノ局内ニ於テ開シヘシ收稅官ハ會議ニ列席シ發言スルヲ得ルト雖モ議決ノ數ニ入ルヲ得ス

第三條 金銭扱所ヲ設置スル爲メ又ハ退去或ハ死亡セル扱所員ニ代ハル爲メ出願スル所ノ人ニ貸附金取扱ヲ允許スルコトハ貯金局ノ理事會議ニ於テシ貸附ヲ許スコトモ亦其會議ニ於テ處理スヘキモノトス(法律第一章)

第四條 貯金局ト金銭扱所又ハ貯金局ト借主トノ結フ契約書ノ書式

ハ貯金局理事會議ニ於テ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受ルモノトス(法律第二章第七章)

第五條 金銭扱所ノ無限責任ナルニ拘ハラス其所員ハ貸附金ヲ正シク償還スルコトニ付キ貯金局ニ對シ自ラ連帶ノ義務アルモノトス

第六條 金銭扱所ハ其共同ヲ以テ爲ス所ノ業務ノ爲メ保證物ヲ供出スヘキモノトス其保證物ハ其業務ノ全體又ハ一定ノ一種又ハ數種ノ業務ヲ保證スヘシ(法律第三章第四章)

第七條 請求シ得ヘキ金額ヲ借主ヨリ拂ヒ込マサルキハ金銭扱所ヨリ其拂込ヲ直チニ貯金局ニ爲スヘキモノトス

第八條 金銭扱所ニハ手数料トシテ負債主ヨリ拂フヘキ利子ノ幾分ノ一ヲ給スヘシ其幾分ノ一ハ貯金局總會議ニ於テ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受ルモノトス

第九條 理事會議ハ本規則ノ第一條及第五條ニ因ラス其必要ニシテ十分ナリト信スル約條及保證ヲ以テシテ土地所有者又ハ財務ニ係

匿名會社差金會社共業會社及其他ノ會社ヲ經農業者ニ貸附金ヲ爲スヲ承諾スルヲ得但此場合ニ於テハ會議ニ列席シタル理事會議員ノ滿場一致ノ可決ヲ以テ議決スヘキモノトス

第二章 農業上債主ノ特權ヲ以テ保證スル貸附

第十條 金錢扱所ヨリ出ダス貸附請求書ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ

第一 特ニ借主ノ徳義及資力アルヲ及農業上債主ノ特權ニ附スル物件ノ性質及價格ヲ掲ケタル參考書(法律第五章)

第二 金錢扱所ヨリ得タル業務允許ヲ記入スル調書ノ署名アル膠本(法律第六章)

第十一條 貸附金ハ一回又ハ年賦ニテ償還スヘキモノトス 貸附金ノ全額又ハ最終年賦金ヲ拂込ハ主タル借地條約滿期ヨリ少クモ一年ノ前タルヘシ

金錢扱所ニ於テ貸地主ヨリ貯金局ノ爲ニ其順番ノ讓渡ヲ得タル場合ニ於テハ此事ニ必要ナル申告ハ特別ノ證書ヲ以テ土地所有者ヨ

リ爲スヘシ 金錢扱所ハ務メテ債主特權ノ貸地主ヨリ先順ニ在ル債主有ルヤ無キヤヲ檢査スヘシ

第十二條 理事會議ニ於テ業務ヲ承諾シタルキハ貯金局長ヨリ送付スルモノ左ノ如シ

第一 金錢扱所ニ借主及其妻ヲシテ署名セシムヘキ貸附證ノ正副

第二 登記收稅官ニ宛テ金庫局長ノ國立銀行ニ對シテ作ラシメタル貸附金額振出支拂切手

金錢扱所ニ於テハ登記收稅官ノ記入ヲ爲セルコトヲ證明スヘキ二通ノ内ヲ登記及記入ノ法式ニ附スルモノトス收稅官ハ其閉局ノ時他ニ記入ナキコトヲ檢認シ借主ノ領收證ヲ取テ支拂切手ノ金額ヲ拂ヒ其翌日貯金局ノ記入ノ外ニ他ノ記入アラサルコトヲ證明スル證書ヲ交付スヘシ

其書類ハ貯金局ニ送付シ他ノ一通ハ借主ニ交付ス

第十三條 利金ノ支拂及貸附ケタル元金ノ償還ハ遅クモ期限ノ日ヲ以テ貸主ノ特權ヲ記入シタル所ノ登記局ニ於テ貯金局ノ爲メニ取扱フモノトス

第十四條 金銭扱所ハ債主ノ姓名住所及己レカ保證人タル貸附ノ金額及元利金償還ノ日附ヲ示ス所ノ表ヲ貯金局ヨリ領收シ(第八號)支拂アレハ其日附ヲ之ニ記入スヘシ

金銭扱所ハ少クモ各期限ノ十五日前ニ支拂フヘキ金額及期限ノ日ヲ示シタル通知ヲ爲スヘキモノトス

第十五條 貯金局ハ毎月其月ノ内ニ支拂金取立ニ任スル登記收稅官ニ次ノ月ニ其局ニ支拂フヘキ元利金ノ償還證書ニ計算書ヲ添ヘテ送付シ其償還證書發行ノ通知ヲ金庫局長ニ爲スヘシ

第十六條 登記收稅官ハ各期限ノ翌日金銭扱所及貯金局ニ借主ヨリ金銭ノ拂ヒ込ナキトノ通知ヲ爲シ期限ヨリ八日內ニ借主又ハ保證

人タル金銭扱所ヨリ引出サ、ル償還證書ヲ回送スヘシ貯金局ハ其領收ヲ通知スルモノトス

第十七條 金銭扱所ハ借主ノ毎年其期限ヨリ三ヶ月以内ニ借地料ヲ支拂ヒタルヲ證明スヘキトテ要求スヘシ借地人ノ出ダス償還證書ハ領收證書發シテ金銭扱所ニ留メ償還證書納付ノ記載ヲ貸附表ニ爲スモノトス

第十八條 貯金局ノ爲メニ收稅官ノ一ヶ月內ニ取立タル資金ハ預金局ノ取扱ニ因リ翌月ノ始ニ於テ其處分ニ委スヘシ

第三章 貯金局ノ通帳ヲ以テ借主ノ爲ス一時ノ預ケ入
第十九條 借主ハ貯金局ノ通帳ヲ以テ農業上債主ノ特權ヲ記入シタル登記局ニ二十法以上ノ金額ヲ預ケ入ル、ヲ得

此預ケ入ノ金額ト借リタル金額トハ決シテ扣除スルコトナシ
第二十條 收稅官ハ初回ノ預ケ入ヲ爲スル預ケ主ニ假領收證書渡シ八日間ニ貯金局ヨリ渡ス所ノ通帳ヲ交付シテ之ト引換ヘ以後ノ預

ケ入ハ收稅官之ヲ證明スヘシ

第二十一條 預ケ入ノ當日收稅官ハ貯金局ニ其通知ヲ爲スヘシ

第二十二條 出納及公債局ハ各月ノ始ニ於テ前月間收稅官ノ領收セ
ル預ケ入レノ金額ヲ貯金局ニ交付スヘシ

第二十三條 預ケ主ハ其預ケ金ノ一部又ハ全部ヲ引出スヲ得
引出ヲ爲サント欲スル者ハ貯金局ニ轉達スル爲ニ其通帳ニ返金請
求書ヲ添ヘテ收稅官ニ出ダスヘシ

返金ハ貯金局ヨリ支拂切手ヲ渡シ通帳中ニ證明スヘシ

貯金局ハ領收證ヲ取テ預ケ主ニ預ケ金ヲ渡スヲ委任スヘシ

第二十四條 貯金局ハ又其通帳ヲ以テ毎年十二月三十一日ニ於テ預
ケ主ノ得タル利金ヲ證明スヘシ預ケ主ハ其爲メ收稅官ヲ經テ一月
ノ始ニ其通帳ヲ回送スヘキモノトス

通帳ハ精算ノ上送付ノ日ヨリ十五日以内ニ返還スヘシ

第二十五條 登記局ニ爲シタル預ケ入金ハ貸附ノ償還ニ定メタル日

ノ以後ハ預ケ置クヲ得ス

貯金局ハ此日ヲ以テ借主ノ元利金ノ決算ヲ爲シ通帳ヲ返付セシメ
テ金額ヲ渡スヲ收稅官ニ委任スヘシ

但借主ニ於テ其預ケ金ヲ貯金ノ尋常業務ヲ執ル他ノ局ニ移轉セシ
ト欲スル者ハ期限ノ八日前ニ其請求書ヲ貯金局長ニ出ダスヘシ

局長ハ指定シタル局ニ其移轉ヲ爲スモノトス其記名者ニハ舊通帳
ヲ返付セシメテ新通帳ヲ交付スヘシ

第二十六條 登記收稅官ニ通帳ヲ交付シタル者ハ假領收證ヲ交付ス
ヘシ其證書ハ預ケ主ノ其通帳ノ返付又ハ計算決済ヲ得ルノ時マテ
保存スヘキモノトス

加則

第二十七條 第十三條ニ記載シタル支拂及ヒ償還並ニ第十九條ヲ以
テ許可シタル預ケ入トシテノ拂込ニ付キ登記收稅官ニ給與スル金
額ノ割合ヲ定ムルノ左ノ如シ

最初ノ十萬法ニ在テハ 千法ニ付キ二法
 次ノ二十萬法ニ在テハ 千法ニ付キ一法五十參
 同ジク二十萬法ニ在テハ 千法ニ付キ一法
 五十萬法ニ越エタル金額ニ在テハ ○法五十參
 第十二條第四項ニ掲ケルカ如クセル支拂及第二十三條ニ掲載シタ
 ル預ケ金返付ニ付テハ給與ヲ爲サス
 收稅官ハ其給與ノ支拂ヲ受ル爲ニ毎年十二月三十一日ニ收入表ヲ
 製スヘシ給與金ハ其就職ノ時日ニ割合セ同ノ局ニ在ル收稅官ニ分
 配スルモノトス
 其他收稅官ニハ一件ニ付二回ノ通知ヲ爲シタルモ及本規則ノ第十
 六條ニ掲ル所ノ償還證書再送ニ付キ各々一法ヲ給ス
 一千八百八十四年五月一日比律悉ニ於テス
 總會議々長事故代理
 理事會議々長

會議ノ書記勤務
 貯金局長
 アン、ド、ブル、ク、ール 署名
 レ、チ、ン、カ、ン 署名
 認可
 大藏大臣
 シ、ヤ、ル、ハ、グ、ロ、ー 署名

農業貸附利息額ノ定

貯金養老金總部局ノ總會議ハ

貯金局ノ總會議ハ貸附金ノ利息及規定並ニ金錢扱所ノ組織又ハ貸附

金取扱允許ノ規定ヲ設クヘシトアル一千八百八十四年四月十五日ノ

法律第二條ヲ檢括シ

爰ニ其額ヲ定ムヘシト認メ

決定ス

農業貸附金ノ利息ハ金錢扱所ニ給スル幾分ノ一ヲ合セテ一年百ニ

四ト定ム

其幾分ノ一ハ業務收入ノ四分ノ一ト定ム

一千八百八十四年五月二日比律悉ニ於テス

總會議々長事故代理

理事會議々長

ア、ド、ブル、ケール署名

會議ノ書記勤務
貯金局長

レ
ン、ガ
ン 署名

認可
大藏大臣 シヤル、ハ、グロ、署名

（Faint, mostly illegible text in the main body of the page, likely bleed-through or very light printing.)

農業上債主ノ特權ノ記入ヲ爲ス所ノ登記局ヲ指定シタル勅令

白耳義國王レヲボル第二世ハ

現在ノ人ニ告ケ將來ノ者ニ示ス

農業貸附ニ係ル一千八百八十四年四月十五日ノ法律第十五條ヲ檢接

我大藏大臣ノ稟告ニ因リ

布告ス

農業上債主ノ特權ノ記入ヲ爲ス所左ノ如シ

比律悉ノ司法區タル諸郡及サンヨヨッスグシノ一ト郡ニ在テハ在比

律悉東部身上證書登記局

アンウエルノ司法區タル郡ニ在テハ在アンウエル南部身上證書ノ登

記局

其他ノ都局及邑ニ於テハ身上證書ノ登記局

大藏大臣ハ本布告ノ施行ニ任ス

一千八百八十四年五月一日比付悉ニ於テス

レヲホル

奉勅

大藏大臣 シヤル、グロ、署名

金錢扱所諸員間ノ契約書

何某氏ト何某氏トノ間ニ條約ヲ取結フ、左ノ如シ

合名會社

第一 某等ハ互ニ合名會社ヲ結フ、ヲ契約ス

會社ノ目的

第二 本會社ハ一ニ其社員ノ連帶無限ナル責任ニ因リ業務收入金ノ一部ヲ中受ク其取扱ヲ以テ貯金養老金總部局ニ於テ一千八百八十四年四月十五日ノ法律ヲ施行シテ承諾スル所ノ農業者ニ對スル貸附ヲ保證スルヲ以テ目的トス

會社ノ營ミ得ル業務

本會社ハ其設立ノ目的ニ關係アル諸般ノ業務ヲ營ミ貸附金取扱ノ條件ヲ定メ之ニ關係アル諸ノ契約書ヲ通達シ諸ノ物上又ハ人事上ノ保證物ヲ要求シ保存ノ方法ヲ處理スル爲メニ貯金養老金總部局ト條約ヲ締結シ及貸附金ノ取立ヲナス爲ニ訟求ノ手續ヲ爲スヲ得

其他ノ所爲ハ總ヘテ本會社ニ禁スルモノトス

社員ノ義務

第三 社員ハ各々業務検査ノ爲メ會社ニ合力スヘキモノトス
社員ハ本會社ニ於テ義務ヲ盡スニ必要ナル金額ヲ會社ニ拂ヒ込ム
ノ誓約ヲ爲ス

社員ハ貯金養老金總部局ヨリ請求スル保證物ノ中ニ於テ自己ノ分
ヲ自ラカ又ハ第三ノ人ヨリ供出スルモノトス

社員ノ證書ニ關係アルコト

第四 社員ハ一千八百七十三年五月十八日ノ法律第十七條ニ因リ社
員中ノ一人署名シタルキト雖モ社名ヲ以テスルニ於テハ連帶シテ
會社諸般ノ義務ヲ盡スヘキモノトス

社名

第五 本會社ハアベセノ順ヲ以テ列舉セル悉皆ノ社員ノ名ヲ以テ社
名トス

會社ノ組織中ニ變更アレハ退去社員ノ名ハ新入社員ノ名ヲ以テ之
ニ代フルモノトス

會社ノ位地

第六 本會社ノ地位ハ某地トス

集會

第七 社員ハ他ヨリ申入ミタルカ又ハ承諾セル業務ニ付キ必要アル
毎ニ登記收稅官局又ハ便宜ノ場所ニ集會スルモノトス

會議ヲ開クニハ在職社員多數ノ出席アルヲ必要トス凡ソ業務ハ出
席社員ノ滿場ニ致シ以テニ非レハ允許ス可ラス
會議ヲ開ク毎ニ調書ヲ製シ出席社員其會議ノ席ニ於テ之ニ署名スヘ
キ

會社ノ組織

第八 本會社ハ貯金局ノ許可ヲ受ケ社員ノ新入ヲ允許スルヲ得
社員ハ各々豫メ會社及貯金局ニ通知シテ退社スルコトヲ得

社員ハ各々他ノ社員一同ノ請求ニ因テハ退社スルノ義務アルモノトス
 本會社ハ其社員ノ中一名若クハ數名ノ死亡無能力又ハ退去ニ因テ解散スルモノニアラス其他ノ人ヲ以テ營業スルヲ社員新入ノ許可ノ時ノ如クナルモノトス
 社員ノ中一名若クハ數名ノ死亡無能力又ハ退去ノ場合ニ於テハ他ノ社員ハ貯金局ノ許可ヲ受テ其代人ヲ撰フノ義務アルモノトス
 加入スル社員及退去スル社員ノ責任
 第九 退去スル社員ノ責任ハ其社員タリシ時ノ間ニ承諾セル業務ニ限ルモノトス
 新入社員ノ責任ハ其入社以後ニ承諾セル業務ニ付キ義務アルモノトス但退去スル社員又ハ其相續人ト新入社員ト協議ノ上新入社員ハ其入社前ニ承諾セル現ニ施行中ニアル業務ノ責任ヲ負擔スルヲ得此場合ニ於テハ其社員ハ其入社許可ノ日ヨリ配當金ヲ受ル

ノ權理ヲ有スヘシ貯金局ハ退去社員又ハ其相續人ノ負擔ヲ全ク免除スルモノトス
 業務ノ開始及會社ノ期限
 第十 本會社ハ貯金養老金總部局ト條約ヲ締結シタル後直ニ其業務ヲ始ムヘシ
 會社ハ 年月日ヨリ以後 年ノ間營業スルモノトス

年月日 某地ニ於テ何通(會社ヲ組織スル社員ノ數ニ因ル)ヲ製ス
 一千八百八十四年五月一日ノ會議ニ於テ總會議ノ認可シタル離形總會議々長事故代理
 理事會議々長
 アンド、ブローカー、署名

會議ノ書記勤務

貯金局長

署名

認可

大藏大臣

署名、グロー署名

（Faint, mostly illegible text, likely a signature or official stamp area, possibly containing the name of the Minister of Finance and other officials.)

貯金局ト金銭扱所トノ條約

比律悉ブルク街二十七番地ニ位地ヲ定メ局長レヲシカシ氏ヲ
 代理者トシ政府ノ保證ヲ以テ設立セシ貯金養老金總部局ト
 某日附ノ私ノ證書ヲ以テ某地ニ設立シタル合名會社トノ間ニ條約ヲ
 取結フコ左ノ如シ

第一條 條約ノ目的
 貯金養老金總部局ノ農業貸附金銭扱所ノ名稱ヲ唱フルノ許可ヲ得タ
 ル某地ノ合名會社ハ其社員ノ連帶無限ナル責任ニ因リ業務收入金ノ
 一部ヲ申受ケ一千八百八十四年四月十五日ノ法律ヲ施行シ其取扱ヲ
 以テ承諾スヘキ農業者ノ貸附ヲ保證スルニ任ス

貯金局ハ他ノ農業貸附金銭扱所ノ取扱ヲ以テ其局ト契約ヲ結ビタル
 會社所在地ノ登記局ノ管轄内ニ於テ同一ノ業務ヲ營ムノ權ヲ有ス

第二條 貸附及其條件
 凡ソ金銭扱所ノ取扱ヲ以テ爲ス所ノ貸附ハ豫メ貯金局理事會議ノ許

可ヲ受クヘシ
金錢扱所ニ於テ承諾スル農業者ノ貸附契約ハ貯金局總會議ニ於テ決
定シ大藏大臣ノ認可ヲ得ル書式ニ從テ編纂スルモノトス
貸附ハ差出ス所ノ保證物如何ヲ論セス實力アリテ白耳義ニ住居スル
者ニ非レハ承諾セス

第三條 金錢扱所委任件

貯金局ハ金錢扱所ニ本契約ノ目的ヲ達スル為メ貸附ヲ承諾スル所ノ農業上債
主ノ特權及其他ノ保證物ノ得有保存及實行金引直スルヲ爲メ必要ナル
又ハ裁判上ナラサル要求ヲ爲シ借主ニ對シ貯金局ノ權理ヲ行フコトヲ
委任ス
貯金局ハ承諾セル貸附證書及之ニ關係アル書類ヲ保管スルモノトス
但金錢扱所ノ請求ニ因テハ委任條件施行ニ必要ナル書類ヲ委託スヘ

第四條 貸附契約ノ施行

金錢扱所ハ貸附契約ノ施行ニ關スル事項ニ付貯金局ノ事務所ニ於テ
之レカ爲メ定メタル規則ニ從フモノトス
金錢扱所ハ借主ノ姓名、住居、貸附タル金額及其取扱ヲ以テ承諾セル貸
金ノ利息、年賦金支拂期ノ日附ヲ記入シタル簿冊ヲ備フルモノトス
金錢扱所ハ期限ヨリ三ヶ月以内ニ借地料ノ拂込ヲ必ス爲スヘキコトヲ
借主ヨリ證明スルコトニ注意スヘシ借地人ヨリ出ダス所ノ償還證書ハ
領收證ヲ交付シテ金錢扱所ニ保管シ償還證書納付ノ記載ヲ貸附簿冊
ニ爲スヘシ

〔書入注〕金錢扱所ハ貸附ケタル資本ヲ契約セル用途ニ使用スルヲ監
督シ差出シタル保證物ノ價低減シテ貸金ノ償還ヲ誤ルヘキ性質ノ
事實及場合ヲ貯金局ニ通知スヘキモノトス
金錢扱所ハ貸附ノ取扱ニ因リ借主ヨリ取ル所ノ書入質權保證物又
ハ其他ノ物ヲ貯金局ニ通知シ貯金局ノ許可ナクシテ其保證物ヲ棄

却スルヲ得ス此義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テハ貸附金ノ償還ヲ借主
又ハ金錢扱所ニ向テ直ニ請求スヘシ

第五條 金錢扱所ノ責任ノ保證

請求スルノ權アル金額ヲ借主ヨリ拂ヒ込マサル場合ニ於テハ金錢扱
所ヨリ直ニ貯金局ニ其拂ヒ込ヲ爲スヘキモノトス
合名會社々員ノ資格ナル金錢扱所所員ハ連帶義務ノ外貯金局ニ對シ
テ金錢扱所ノ連帶保證人トナルノ義務アルモノトス貯金局ハ便宜其
各員ヲ直接ニ召喚スルヲ得ヘシ金錢扱所ハ其取扱フ所ノ業務ノ保證
トシテ貯金局ニ保證物ヲ出タスヘシ其保證物ハ白耳義國內ニアル不
動産ノ書入質又ハ預金局ニ預ケ入ル、爲メ國立銀行ニ寄托スヘキ動
産證券類タルヘシ

第六條 金錢扱所ノ報酬

金錢扱所ニハ業務收入ノ四分ノ一ヲ報酬トシテ交付スヘシ

第七條 契約ノ期限

本契約ハ何年月日ヨリ起算シ何ケ年ノ期限タルヘシ

第八條 總則

貯金局理事會議ハ金錢扱所ノ業務ヲ停止シ又ハ制限スルノ權理ヲ有
スルモノトス

年月日某地ニ於テ二通ヲ作ル

一千八百八十四年五月一日ノ會議ニ於テ總會議ノ認可シタル雛形

總會議々長事故代理

理事會議々長

アンドン、ブルーケール署名

會議ノ書記勤務

貯金局長

認可

大藏大臣

レ、サイン、カ、ン、署名

一千八百八十四年四月十日
貯金局ニ入ルヘシ
貯金局ト農業貸附金銀扱所トノ間ニ取結フ書入質ノ契約書
某氏ノ面前ニ出頭シタル某氏ハ某地ニ於テ無税ヲ以テ登録シタル何
年月日附ノ私ノ證書ヲ以テセル契約ニ因リ某地ニ設置セル貯金養老
金總部局ノ農業貸附扱所々員ノ資格ヲ以テ一千八百八十四年四月十
五日ノ法律第三條ヲ施行シ該金銀扱所ノ取扱フヘキ業務ノ保障トシ
テ約諾シタル特別ノ保障物ノ一部ヲ貯金局ニ入ルヘシ
因テ某氏ハ左ノ不動産ヲ以テ某々ノ金額ヲ限トシ貯金局ニ書入質ト
爲スコトヲ證言ス

貯金局ト農業貸附金銀扱所トノ間ニ取結フ書入質ノ契約書
某氏ノ面前ニ出頭シタル某氏ハ某地ニ於テ無税ヲ以テ登録シタル何
年月日附ノ私ノ證書ヲ以テセル契約ニ因リ某地ニ設置セル貯金養老
金總部局ノ農業貸附扱所々員ノ資格ヲ以テ一千八百八十四年四月十
五日ノ法律第三條ヲ施行シ該金銀扱所ノ取扱フヘキ業務ノ保障トシ
テ約諾シタル特別ノ保障物ノ一部ヲ貯金局ニ入ルヘシ
因テ某氏ハ左ノ不動産ヲ以テ某々ノ金額ヲ限トシ貯金局ニ書入質ト
爲スコトヲ證言ス
爰ニ不動産ヲ列舉スヘシ
此不動産ハ出頭セル某氏ノ所有トス
某氏ハ少シモ某々ノ價格金高チ用途トシ保險會社トシテ其書入質ト
シタル不動産ノ内ニ在ル屋舎ノ火災保險ヲ爲サシメ保險契約書ノ寫
及年々ノ保險料拂込證書ヲ貯金局ニ出ダスノ義務ヲ負擔シ書入質ト
シタル不動産ニハ決シテ記入ナキコトヲ證言ス

其不動産ハ貯金局ニ於テ承諾セル貸附ニ對シ金錢扱所々員ヨリ爲
 シタル保證ヲ以テシ某々ノ金高ヲ限リトシ金錢扱所及其所員ヨリ請
 求スルヲ得ヘキ金額ノ支拂ニ當テタルモノナリ
 此書入質ハ出頭セル某氏ノ社員タル時ノ間金錢扱所ニ於テ承諾セル
 業務ヲ保證スルモノニシテ書入質記入ノ除去ハ保證タル貸附金ノ
 皆濟後ニ非レハ請求ス可ラサルモノトス差押ヲ爲スヘキ場合ニ於テ
 ハ貯金局ハ一千八百五十四年八月十五日ノ法律第九十條及其以下ノ
 條ニ因リ任意ノ賣却法ヲ以テ其質物ヲ賣ラレムルノ權ヲ有スヘシ
 某氏ハ紙末ニ署名シタル公證人又ハ本契約正本ノ所持人ノ業務室ニ
 於テ本契約履行ノ爲メ住居ノ撰示ヲ爲ス
 位地ヲ比付悉ニ定メタル即金養老金總部局長比律悉在住レシカ
 氏本契約ノ締結ニ參與シ其局ノ代理者トシテ前條ノ契約ヲ承諾スル
 ヲ證言セリ
 本契約ノ費用及公證人ノ報酬ハ某氏之ヲ辨スヘシ其證書云々

貯金總務局ト金錢扱所々員トノ間ニ取結フ買入ノ契約書

第一方ハ比律悉ニ位地ヲ定メ局長レシカ氏ヲ代理者トスル貯金
 養老金總部局
 第二方ハ某地ニ在ル貯金養老金總部局ノ金錢扱所々員某氏(姓名住居
 右雙方ノ間ニ契約ヲ取結フ左ノ如シ
 第二方ハ何々ノ條約ニ因リ貯金局ヨリ其金錢扱所ニ約諾セル保證物
 ノ一部ヲ差出スノ義務ヲ盡スカ爲メ左ノ證券類(買入トスル價額ヲ示
 スヘシ)ヲ第一方ニ買入トス
 此證券類ハ何々法ヲ限リトシ貯金局ノ承諾セル農業貸附ノ保證ニ對
 シ金錢扱所及其所員各者ヨリ返還ヲ請求スルヲ得ヘキ金額ノ支拂ニ
 備ヘ債主ノ特權ヲ附ス此買入ヲ以テ紙末ニ署名シタル第二方ハ其退
 去セサル時ノ間金錢扱所ノ承諾シタル總額ニテ業務ヲ保證スヘシ其
 還附ハ保證シタル貸附金全額ノ償還アリシ後ニ非レハ請求スルヲ得
 ス

貯金局ハ期限ニ至レハ其證券類ノ利札ヲ切り取り之ヲ紙末ニ署名シ
 タル第二方ニ交付スヘシ
 相場ノ低落ニ因リ質入トシタル證券類ノ前ニ示ス金額ニ相當シタル
 保證物トナラサル場合ニ於テハ紙末ニ署名シタル第二方ハ之ニ相當
 スル補足ノ保證物ヲ差出スヘキモノトス
 貯金局ニ質入シタル證券類ハ預金局ノ爲メ國立銀行ニ寄託シ第二署
 名者ノ皆濟マテ保存スヘシ

右二通ヲ製ス

年月日比律悉ニ於テス

年月日某地ニ於テス

(確實ノ日附ヲ與フル爲メ登記スヘキ契約書)

農業貸附金ヲ受ル爲メニ差出スヘキ參考表

- 第一 借主ノ姓名
- 第二 職業及住所
- 第三 出生ノ地及日附
- 第四 未婚者結婚者又ハ寡夫
- 第五 兒女ノ人數及年齢
- 第六 土地所有主兼借地人又ハ唯々借地人
- 第七 貸貸スル財産所有主ノ姓名及宿所
- 第八 耕作スルニシテ(凡ソ我々一町〇)ノ數
 耕作スルニシテ(凡ソ我々一町〇)ノ數
- 第九 地借料ノ金額
- 第十 借地年限 約定期限ノ年月日
- 第十一 期限ノ至レル借地料ヲ支拂フタル領收證書ノ日附
- 第十二 借入金ノ請求額
- 第十三 借入金ノ用途

第十四 償還ノ方法

一 一時ノ拂ヒ込

二 年賦拂ヒ込

第十五 償還ノ時期

第十六 農業上債主ノ特權ニ付スヘキ物件ノ性質及價格

第十七 借主ノ差出ス保證物

第十八 徳義及資力アル事

第十九 請求セル借入金ニ付貯金局ノ債主タルヲ得ヘキ金額ニ對シ土地所有主ハ貯金局ニ其順序ヲ讓ルコトヲ承諾スヘキヤ如何

第二十 土地所有主ハ其證書ニ關係ルスコトヲ承諾セサルハ請求セル借入金ニ對シ特ニ農業貸附金錢扱所ニ加入スルヲ承諾スヘキヤ如何

第二十一 其謝絶ノ場合ニ於テハ借主ハ特ニ其負債主タル金額及

借地期限ニ關スル事ニ於テ土地所有者ニ對シテ其位置ヲ定メタル書類ヲ供出スヘシ

借地期限ニ關スル事ニ於テ土地所有者ニ對シテ其位置ヲ定メタル書類ヲ供出スヘシ

ニ資本ヲ使用シタルトシテ證明スヘキモノトス(此文ハ書入ナリ)

第二條 元金ハ某日ヨリ償還ノ日マテ金錢扱所ニ報酬トスル百ニ二
十五ノ分ヲ合シテ百ニ四ト定メタル利息ヲ年々ニ生スルモノトス
其利息ハ某年某月某日ニ支拂フヘシ

第三條 此貸附金其年月日ヨリ起算シ何年間ノ期限トス

元金ハ某年月日又ハ年賦ニテ償還スヘシ(一回又ハ年賦ニテ某年月
日ヨリ某年月日マテ毎年ノ某月日ニ變法宛拂ヒ込ムヘシ)

期限前ニ償還ヲ請求スヘキ原因

借主ハ定メタル期限前ニ全部又ハ一部金額ノ償還ヲ爲スヲ得

第四條 左ノ場合ニ於テハ貯金局ハ貸附金ノ償還ヲ直ニ要求スル
ヲ得

甲 借主ニ於テ其義務ヲ盡サズル時、特ニ利息又ハ年賦金ヲ正シ

拂ヒ込メザル時、借主ヨリ貯金局又ハ金錢扱所ニ供出シタル
保証物ノ價ノ減シタル時、契約セル用途ニ違フテ資本ヲ使用

乙 或事故ニ因リ借主ノ結ヘル借地條約中ノ一ヲ解約シタル時
又ハ其効ヲ失ヒシ時

丙 相続人ナシ借主ノ死去シタル時

丁 保証トシタル物件ヲ貸附金ノ借主タル土地所有者ヨリ貸貸
シタル時又ハ其物件ヲ貸借主ニ讓渡シタル時(但讓渡シタル
物件上ニ係ル貯金局ノ權利ヲ傷害セスシテ)

借主ハ期限ヲ過スルカ又ハ債權ヲ要求スヘキ原因ヲ實行シタル時
ハ證書ヲ要セスシテ遲滞者トセラルヘシ

期限前ニ償還ヲ爲ス時ノ賠償

第五條 自ラ望テカ又ハ已ムヲ得スレテ償還ヲ期限前ニ爲スルハ保
證シタル金錢扱所ニ借主ヨリ賠償ヲ爲スヘシ

此賠償ハ金錢披所ト借主ト協議シ今日ヨリ之ヲ、ハ、ハ、ニ定ム

保證物

第六條 借主ハ貯金局ニ對シ其諸般ノ義務ノ保證トシテ一千八百五十二年十二月十六日ノ法律第二十條ノ第一項ニ定メタル、ハ、ハ、法ノ概算ナル何々ナル物件ニ付借主ノ特權ヲ承諾スルヲシテ證言ス(爰ニハ各種物件ヲ種類ニ因テ分テ其概算金額ヲ示シ又債主ノ特權ニ附シタル物件ノ性質ヲ示ス)

(書入)保證物トシタル物件ハ貸附契約ノ時ニ於テ借主ノ手ニ在ルヘキヲ今後購得スヘキ物件ヲ保證物トシテ出ダス可ラサルハ勿論ナリトス購得スヘキ物件ハ貸附ノ保證物ヲ補足シ増加スヘシト雖モ契約商議ノ時及契約ノ時ニ現在ズル所ノ物件ハ貯金局ニ於テ承諾シタル業務ノ爲メ貯金局ニ於テ必要ト認ムル方法ニ因リ償還ヲ保證スル爲メ十分ナラザル可ラサルナリ) 借主ハ其物件ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキ負債ノ決シテアラサルヲ證

言ス(種子收穫入費耕作ニ用フル器械又ハ購入セル動産ノ支拂即チ借入レタル金額ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキハ、ハ、法ノ金額以外) 借主ノ耕作スル借地ハ某地ニ在テ第何號ヲ以テ土地臺帳ニ記入アリ(借主カ其耕作スル土地ノ所有者ナルハ爰ニ入ルヘキ明文ハ下ノ如ク即チ借主ハ其自ラ耕作スル地ノ所有者ニシテ差出ス所ノ證書ニ示ス如ク其土地ハ書入質權又ハ不動産債主ノ特權ニ附シタルモノニ非ルコト法證言ス云々)

第七條 貯金局ノ利益ハ爲スヘキ記入ニハ貯金局ニ於テ立替チ爲スヘキ所ノ諸入費ノ償還ヲ保證スル爲メ、ハ、ハ、法ノ金額ヲ組込ムヘシ

第八條 總ヘテ支拂ハ借主ヨリ本證書ヲ記入シタル局ノ登記收稅官ニ爲スヘシ

借主ノ相續人

第九條 借主ノ相續人ハ民法第八百七十七條ノ適用ヨリ生スル諸入
費ヲ合シ元金利金年賦金及其他悉皆ノ附屬金額ニ付連帶シテ義務
ヲ盡スヘキモノトス

第十條 本契約ノ履行ニ關スル諸事書類送達及召喚ニ付テハ借主ハ
現今ノ住居ヲ以テ書類送達ヲ受ル所ト定ム

第十一條 本契約ノ諸税及入費ハ借主ノ負擔トス
右二通ヲ製ス

年月日 某地ニ於テス
年月日 比律悉ニ於テス
貯金局長
法ノ手形
借主ノ各者自ラ記シテ語ノ文字ヲ以テ借
入ノ元金ヲ配ス

一千八百八十四年五月一日ノ會議ニ於テ總會議ノ認可シタル契約
書ノ雛形

總會議々長事故代理
理事會議々長

會議ノ書記勤務
貯金局長
アン、ド、プルー、テケール 署名

レ、チ、ン、カ、ン 署名

認可
大藏大臣
チャル、グロ、署名

政府ノ保證ヲ以テ設置シタル貯金養老金總部局
某地農業貸附金錢扱所

某氏(姓名職業住所)ノ支拂ヒタル借地料償還證書ノ領收書

番 號	金 額	日 附		土地所有主ノ姓名住所
		期 限	支 拂	

千八百 年 月 日 某地ニ於テス

...

○用法的不動産 用ヒ方ニ因リ不
動産トナハル物

民法第五百二十四條 土地ノ所有者其地ニ於テスル作業又ハ耕作ノ
爲メニ其地ニ備ヘタル物ハ用法的不動産ナリトス故ニ

土地ノ耕作ニ用ル獸類

農具

貸借小作人又ハ收納物ノ一部ヲ納ル小作人ニ與フル種子

鳩舎ノ鳩

兔舎ノ兔

蜜蜂ノ巢

池沼ノ魚

搾器、大釜、蒸溜器具、桶、樽ノ類

鍛工、製紙及ヒ其他ノ製造ニ必要ナル器具、鏡及ヒ肥料

此等ハ其所有者ノ土地ニ於テスル作業又ハ其耕作ニ用フルカ爲ニ
備ヘタル時ハ用法的不動産トス

凡ソ所有主ノ永久其土地ニ備ヘタル動産モ亦用法的不動産トス
 民法第五百二十五條 漆喰又ハ石灰又ハセメントヲ以テ動産ヲ不動
 産ニ附着シ或ハ動産又ハ不動産ノ一部ヲ破壊シ又ハ損傷セサレハ
 其動産ヲ分離スル能ハサルモハ其所有者ハ永久之ヲ不動産ニ附着
 シタルモノト見做スヘシ
 房室ノ玻璃版ノ枠ヲ其屋材ト連合シタル時ハ永久之ヲ離分セサル
 方法ヲ以テ附着シタルモノト看做ス可シ書櫃及ヒ其他ノ裝飾ノ具
 ニ於ケルモ亦同シ
 立像ハ移轉スルニ其屋材ヲ破壊シ又ハ損傷スルコトナシト雖モ特ニ
 之ヲ置シ爲ニ壁ニ作リタル籠ニ在ル時ハ不動産トス

凡ソ所有主ノ永久其土地ニ備ヘタル動産モ亦用法的不動産トス
 民法第五百二十五條 漆喰又ハ石灰又ハセメントヲ以テ動産ヲ不動
 産ニ附着シ或ハ動産又ハ不動産ノ一部ヲ破壊シ又ハ損傷セサレハ
 其動産ヲ分離スル能ハサルモハ其所有者ハ永久之ヲ不動産ニ附着
 シタルモノト見做スヘシ
 房室ノ玻璃版ノ枠ヲ其屋材ト連合シタル時ハ永久之ヲ離分セサル
 方法ヲ以テ附着シタルモノト看做ス可シ書櫃及ヒ其他ノ裝飾ノ具
 ニ於ケルモ亦同シ
 立像ハ移轉スルニ其屋材ヲ破壊シ又ハ損傷スルコトナシト雖モ特ニ
 之ヲ置シ爲ニ壁ニ作リタル籠ニ在ル時ハ不動産トス

給與金ノ割合

第十七條 登記税、相続税又ハ官有地收入ノ徵收ニ任セサル書入質保
 管人ノ尋常ノ給與金ヲ定ムルニ左ノ如シ

- 最初ノ四萬法ハ 百ニ付四
- 次ノ三萬法ハ 百ニ付二
- 其以上 百ニ付一

此給與金ハ實收ニ基キ三千法ニ越ルチ得ス

第十八條 收稅官ノ給與金ハ左ノ額ニ因テ定ム

- 甲 租稅及官有地收入
- 最初ノ五萬法ハ 百ニ付五
 - 次ノ三萬法ハ 百ニ付四
 - 次ノ十萬法ハ 百ニ付二
 - 次ノ八萬法ハ 百ニ付一ト二分ノ一
 - 次ノ十萬法ハ 百ニ付一

次ノ十四萬法ハ
五十萬法ニ越ル收入ハ

百ニ付〇、四分ノ三
百ニ付〇、三分ノ一

乙 寄託收入

最初ノ五萬法ハ

百ニ付一

次ノ五萬法ハ

百ニ付〇、二分ノ一

其以上

百ニ付〇、四分ノ一

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）

農業貸附金

農業上債主ノ特權又ハ他ノ動産抵當又ハ書入質
日本帝國ノ爲メニ参考
農業上ノ貸附ハ貯金局ニ因テ爲スヲ得即チ金錢扱所ヲ經ルルハ
約束割引即爲換手形(レソト)ヲ以テ以テスルカ又ハ農業
上債主ノ特權ヲ保證トシテ貸借契約ヲ結フコト
金錢扱所ヲ經サルルハ
不動産ヲ書入質トスルカ又ハ政府ノ證券或ハ他ノ固定資産ヲ以テ
スル所ノ特別ナル動産ノ質入ヲ以テスル
貯金局ハ又同シ保證物ヲ取り金額ヲ定メテ農業ノ爲ニ信用貸ヲ爲ス
ヲ得ヘシ然ラハ則チ農業者ハ入用アルニ從テ其貸金ノ全部又ハ一部
ヲ借り出スコトヲ得
農業上債主特權ヲ保證トスル貸附ハ私ノ證券即チ貯金局ト負債主ト
ル農業者トノ關係ニ於ケル證書又ハ公ケノ證券即チ此二者ヨリ公證

人ニ出ダシ公證ヲ經タル證書ヲ以テスルヲ得ヘシ
 夫レ公證人ハ關係者雙方ノ證書日附ヲ確手クラシメ其納付セルモノ
 ナ保存シ其原本ヲ交付スル爲メ官ノ文書ニ均シキ公正ノ性質ヲ與フ
 ルヲ要スルカ又ハ與ヘント欲スル雙方ノ證書及契約書ヲ領收スル爲
 ニ設置スル所ノ官吏トス是レ白耳義及佛蘭西ニ於テ公證人ノ創設法
 律タル共和曆十一年六月二十五日ノ法律第一條ニ明言スル所ナリ
 公證人ハ終身官ニシテ請求ヲ受ルルハ其職務ヲ行フノ義務アルモノ
 ナリ
 公證人ハ登記官吏ノ監督ヲ受テ職務ヲ行フモノニシテ法律中ニ揭
 ル所ノ違犯ハ司法省ニ申告シ司法省ニ於テハ其違犯者ノ處分ヲ爲ス
 公證人ハ見習即チ六ヶ年ノ間業ヲ修メ學習ヲ爲サ、ル可ラス政府ハ
 行政及司法ノ職務ヲ執リシ者例トシテ登記官吏裁判所ノ書記及ヒ裁
 判官トシテ見習ヲ免除スルヲ得

公證人ハ國王之ヲ任命スルモノニシテ其職務ノ停止又ハ
 公證人ハ重過アルルハ其居住地ノ民事裁判所ヨリ其職務ノ停止又ハ
 免職ヲ命スルモノニシテ其職務ノ停止又ハ免職ヲ命スルモノニシテ其職務ノ停止又ハ
 關係者雙方ヨリ公證人ニ支拂フ所ノ謝金ハ公證スル證書ノ重要ナル
 ト否ト之ヨリ生ズル責任ノ大小ニ因テ多少アリ但司法區ニ設ケタ
 ル公證人風紀局ニ於テ定メタル手数料ノ表ニ因テ徵收スルヲ規則ト
 ス
 (註)附録トセル金額表ヲ拔萃シ見ルニ
 書入質又ハ書入質ニ因テ保證アル物件ノ質入ヲ以テスル貸附ハ公證
 人ヲ經サレハ爲スヲ得ス他ノ動産質入ヲ保證ヲ以テスル貸附ハ唯ダ
 私ノ證書ヲ以テスルヲ得
 貸附證書ハ其貸附シ農業上債主ノ特權ヲ以テ爲スルハ登記局ニ於テ
 書入質ヲ以テ爲スルハ書入質保存局ニ於テスル所ノ記入前ニ登記
 スヘキモノトス農業上債主ノ特權外ハ動産保證ヲ以テスル貸附ノ證

書ハ記入ス可ラスト雖モ亦登記スヘキモノトス
登記ノ法式ハ一般ニ收税官ノ爲ス所ノ證書ノ鑑定モシテ其目的ハ二
箇トス即チ契約者雙方及第三ノ人ノ利益タル公務ニシテ又政府ノ爲
メニハ極テ收入多キ租稅ヲ徵收スル基本タルナリ

〔註〕登記ハ證書ノ保存及私ノ證書ノ日附ヲ確實ナラシメ日附繰リ上
ケテ豫防ヲ使丁ノ送達スル書類ノ有効トナルニ必要ナルモノナリ
農業上債主ノ特權外ノ保證ナキ貸附又ハ信用貸ニ要スル登記稅ハ最
初ノ契約チ一年以上ニ定メタルキハ百法ニ付キ六十五參ニシテ一年
以下ニ定メタルキハ百法ニ付キ三十參トス
此貸附ノ記入メ國庫ニ收入スル諸稅ヲ免スルニシテ
農業上債主ノ特權外ノ保證ヲ以テスル貸附證書ハ百法ニ付キ三法四
十參ノ登記稅ヲ徵收シ其他書入質ナルキハ千法毎ニ一法三十參ノ記
入稅大課ス
〔註〕農業上債主ノ特權ヲ以テセサル書入質又ハ質入ヲ以テスル信用

貸ハ其實行前ニ百法ニ付七十五參ノ稅ヲ納メ其實行チ官府ニ於
テ證明スルルハ義務稅ノ補足即チ七十五參ヲ納ムルナリ
其他貸附及信用貸ノ證書ニハ證券印稅ヲ課ス(用紙ノ大小ニ因リ五十
參一法又ハ一法三十參)書入質保管人ノ保管スル書入質債主ノ特權記
入ノ簿冊ハ二法六十參ノ證券印稅トス
登記收税官ノ簿冊ニアル農業上債主ノ特權記入(貸附證書ノ一字ヲモ
改メスル)騰記スル記入ノ日附ヲ以テ同一ノ農業者ニ貸附ケタル二
人又ハ其以上ノ債主タル者ノ特權ノ順番ヲ定ム
他ノ者ヨリ先順ニ在ル債主ノ害タルニキ日附繰上チ可及的豫防スル
爲メニ日々閉廳ノ時其記入簿冊ヲ左ノ如ク終結スルヲ收税官ニ命
ス
一千八百八十五年二月一日終結(閉鎖)(收税官署名)
其終結毎ニ收税官手ツカラ記入シ讀ミ易ク之ニ署名スヘシ日附ハ一
千八百八十五年ヲ除ク外ハ數字ヲ記セスシテ語ノ文字ヲ記スルモ

ノトス而シテ日曜日及大祭日ハ大字ニテ書クヘシ
 收税官ハ終結ヲ遅延スルカ又ハ其規則ニ適シタルカ又ハ終結ヲ洩ス
 カ後ニ加筆ヲ爲スカ又ハ後日改メモ重複ニ涉ルコトアル毎ニ五法ノ
 罰金ヲ國庫ニ收入セラル、モノトス
 終結ノ變改加筆又ハ抹殺ニ因リ日附線正シ爲メ之ヲ爲サレバ法式
 ヲ履ムノ遅延タルベキ場合ニ於テ收税官ハ之ヨリ生シタル總ヘテノ
 損害ノ責ニ任スヘキモノトス
 記入ハ閉局ニ定メタル時ノ後又ハ日曜日及大祭日ニ決シテ爲ス可ラス
 除去ト唱フル記入ノ全部又ハ一部ヲ抹殺(取消)承諾ハ公ノ證書(公證)ア
 ルモノトシ以テ他ノ保證ナキ貸附記入ニ在テハ私ノ證書ヲ以テス而
 シテ其事ニ關係アリテ(記入)セバ債主其承權人又ハ其代理人即チ讓受
 人相續人等)其事ヲ爲スノ權アル者之ヲ爲スヘシ抹殺ハ又終審ノ裁判
 又ハ既決事件ノ力ヲ經タル裁判ヲ以テモナスヘシ抹殺ヲ爲スヘキ登
 記收税官ハ其權アルモ否チ確證スルノ責ニ任スヘキモノトス

法律ニモ又證書ニモ基ツカズシテ記入ヲ爲シタルモ又ハ不規則ナル
 カ或ハ消滅セルカ或ハ既ニ返済シタル證書ヲ以テ記入ヲ爲シタルモ
 又ハ債主ノ特權又ハ書入質權ノ法律上ノ事ニ因テ消滅シタルモハ裁
 判所ヨリ其抹殺ヲ命令スヘシ
 [註]返済ノ證書トハ除去ノ證書ニ因リ抹殺ヲ承諾シタル者ノ權理ヲ
 收税官ノ過テ證明シタル場合ニ付テ言フ
 抹殺ノ唯々一部分ナルモハ收税官ハ書面ニ線ヲ引カス實際ニ抹殺セ
 スト雖モ其全部ナルモハ記入ニ線ヲ引クモノトス而シテ其全部タル
 ト一部タルトト問ハス簿冊ノ紙白ニ抹殺ヲ記載スヘシ
 其他收税官ハ最初ノ證書ト抹殺承諾ノ證書トノ下郡ニ左ノ如ク記入
 ス
 記入全部又ハ一部抹殺第何冊第何號 年 月 日
 收税官署名
 收税官ハ請求者アレハ其請求書中ニ指名シタル人ノ負擔ヲ以テ現在

入ノ證書ノ謄本又ハ其記入ナキハ之ヲ證明スル證書ヲ交付スル
 モノトス
 收税官ハ其局ニ請求シ來ル記入ノ其簿冊ニ洩ルノ責ト現在スル一
 箇又ハ數多ノ記入ヲ證書ニ記載ナキノ責ト任ス但其過誤ノ收税官
 ニ歸ス可クサル所ノ不十分ナル申告ヨリ出タルハ此限ニ非ラス
 收税官ハ農業上債主ノ特權保存ノ爲メ記入ヲ爲シタル負債主ノ表ヲ
 アベセノ順ニ因テ日々明カニスルノ義務アルモノトス
 書入質ノ保管者ノ保管スベキモノハ就中左ノ如シ
 第一 記入又ハ際記ヲ請求スル所ノ證書ヲ請取りタルヲ番號ヲ
 附シテ證明スルノ保存簿冊
 第二 債主ノ特權及書入質權ノ記入ト記入抹殺又ハ滅殺ノ紙白ニ
 記載アルヲ書キ留ル簿冊
 第三 際記ヲ爲ス簿冊
 唯ク第一ノ簿冊ハ毎ニ終結スルヲ登記ノ簿冊ニ同ククシテ急シハ初

犯ニ在テハ五十法乃至百法ノ罰金ナリ再犯ハ其罰金三倍ニシテ場合
 ニ因リ免職ヲ命ス關係者ニ損害アレバ其要價ヲ受テ罰金ニ先テ之ヲ
 支拂フモノトス
 書入質權ノ記入ニ在テハ債主ハ自身カ又ハ第三ノ人ヲ以テ債主ノ特
 權又ハ書入質權ヲ生スル所ノ證書ノ公正ナル謄本(公證人ノ作レル謄
 本)ヲ保管人ニ交付シ證書ニ因リ債主負債主義務ノ物件(元金利息以金
 額及其他ノ附屬物返済ニ定メタル期限)及負債ノ抵當トナシタル不動
 産ニ係ル詳細ノ事項ヲ印紙ニ記入セルニ種ノ書類ヲ添フベシ
 保管人ハ其書類ヲ一字モ改メズニ記入簿冊ニ寫シ取り證書ノ寫ト共
 ニ一ヲ請求者ニ交付シ其書類ノ下部ニ日附簿冊ノ冊號番號ヲ附記シ
 テ記入ヲ爲シタルヲ證明スベシ(一千八百五十一年十二月十六日ノ
 書入質法律第八十三條ヲ見ル) 債主ノ特權及書入質權外ニアル不動産(不動産ノ寄贈賣却交換分配等)
 ニ付テノ實權ノ移轉スル無費又ハ費ヲ拂フ時ノ證書又ハ申告書ハ其

財産所在地ノ書入質保管局ニ於テ之レガ爲メ備フル所ノ簿冊ニ全文
 ナリ騰記スルモノトス然ラサル間ハ詐僞ノ手段ナク契約スル所ノ第三
 者ニ對シテ故障ヲ陳フルヲ得ス不動産ニ付テノ権理及九年ヲ越エタル
 又ハ少クモ借賃三ヶ年ヲ支拂ヒタル不動産借受契約ノ棄却證書ニ付
 テハ其不動産ニ付テノ権理移轉ノ爲メ條約書ノ又ハ證書ノ代用タル
 既決事件ノ力ヲ經タル裁判ヲ以テモ前ト同一ナリトス
 裁判ノ公ケル證書及裁判ニ於テ認メ又ハ公證人ヲ經タル私ノ證書ノ
 ナリ騰記ヲ許スヘシ
 第三ノ者トハ譲渡又ハ分配ノ日ヨリ證書ノ騰記ニ至ル間ニ於テ譲渡
 シタル又ハ分配シタル不動産ニ付キ権理ヲ得タル人ヲ云フ
 不動産賣却交換寄贈又ハ分配ノ證書ハ書入質權ノ騰記ナクモ契約者
 ノ間ニハ既ニ完全セルモノナリト雖モ其權ノ移轉ニ付キ第三者ノ容
 喙ヲ得ザランニハ其騰記ヲ爲シス公然タルメサル可ラサルナリ是
 ノ故ニ同一ナル所有者ノ相續ヲ三回ノ賣却ヲ爲ス場合ニ於テ奪フ可

ラサル所有權ヲ得ルモノハ日附ニ於テハ後ニ在ルモ最初ニ其證書ヲ
 騰記セシメタル購得者ナリトス但其前ノ譲渡ヲ知ラサル時ニ限ルヘ
 シ是レ騰記法ハ尙ホ前所有主ノ承諾スヘキ書入質ト爲スコト無効ト
 ナシタルモノナレバナリ騰記ノ時ハ保管人必ス署名スルモノトス
 國庫ニ收入スル騰記税ハ一般百法ニ付キ二十五參ニシテ交換ニ在テ
 ハ其價最モ低キモ百法ニ付三十五參トス
 書入質ノ保管人ハ質權等ノ移轉及讓與ヲ證明セタル證書ヲ交付シ又
 請求者アレハ現在スル記入又ハ騰記ノ原本又ハ其現在セサルコトヲ證
 明シタル證書ヲ交付スヘキモノトス其實ニ任スルコト如シ
 第一 其簿冊ニ證書ノ騰記及其局ニ請求スル記入ヲ視テス
 第二 其證書ニ現在スル騰記又ハ記入ノ一箇又ハ數箇ヲ記載セキ
 ヲルコト但其過誤ノ保管人ニ歸ス可ラサルヘキ不十分ナル申告
 ヲヨリ出テタルキハ此限ニ非ラス
 負擔表又ハ口頭請求ニ付キ打消ノ證書ヲ交付スルヲ禁ス
 (打消ノ證書ト

證明明書
 書入質記入ノ抹殺又ハ減殺ハ關係者雙方及ヒ其請求權アル者ヨリ出
 ダス公正ノ承諾證書又ハ終審ノ裁判又ハ既決事件ノ力ヲ經タル裁判
 ニ因リ保管人ノ爲メ所シモノトス保管人ハ記入簿冊ノ紙白ニ署名ア
 ル記載ヲ爲シ法式ノ履行ヲ證明スル印紙證書ヲ雙方ニ交付ス
 前ニ言ヘル際本負擔表及證書ヲ公衆ニ供給シ得ル爲メニ保管人ハ無
 印紙ヲ以テシテ書入質ヲ爲シタル各所有主又ハ各購得者ノ姓名ヲ下
 ニ記入抹殺及贖記ヲ記載セル目錄ヲ製シ之ニアベセ順ノ表ヲ附スル
 モントス
 登記收稅官及書入質保管人ハ其收入セル額ニ割合ヒ政府ヨリ給與ヲ
 受シ甲者ニ在テハ其最少額ハ(一千八百法)ニシテ最多額ハ(一萬法)
 一ハ(三千法)トス保管人ハ其他公衆ヨリ其請求ニ因テ履行スル所シ法
 式ニ定メタル給テ受ク

比律悉ニ於テ

一千八百八十六年九月二十四日

白耳義國登記兼官有物局長

署名

白耳義公證人ノ報酬金定額

義務契約、金銀貸借及信用貸

アンゾニ郡

義務(借) 五千法マナ百ニ付三、其以上百ニ付二、五但手數料共

信用貸 十萬法マナ百ニ付〇、五、十萬法以上ノ總數ハ百ニ付〇、三分ノ

一、但十萬法ニ對スル百ニ付〇、五ノ金額ニ加算スヘキモノトス

アンドナル郡

貸借、義務契約、信用貸 公證人ヲ經ルモノ

二千法マナ百ニ付二、之ニ越ル毎ニ百ニ付一

同 公證人ヲ經サルモノ

申立ノ元金千法マナ百ニ付二、之ニ越ル毎ニ百ニ付〇、五、但記入證

書ノ報酬ハ此内ニアラス

其報酬ノ最少額

六法

比律悉那

信用貸

- 甲 千法ニ滿サル信用貸 報酬ハ協議スヘシ
- 乙 千法以上五千法ニ滿サル信用貸
 - 正本ノ報酬百ニ付一、其他入費及諸稅報酬ハ十五法ニ滿サルモ十
 - 五法ヲ徵收ス
- 丙 五千法以上ノ信用貸
 - 第一 五千法以上一萬法ニ滿サル信用貸
 - 報酬入費ヲ合セテ百ニ付一法七十五參
 - 第二 一萬法以上五萬法ニ滿サル信用貸
 - 百ニ付一法五十參
 - 第三 五萬法以上十萬法ニ滿サル信用貸
 - 百ニ付一法二十五參

第四 十萬法以上 百ニ付一法

- 甲 業務ヲ公證人ニ因テ商議シタル時
 - 貸附金千法以下ナル時ハ公證人ハ雙方ト協議スヘシ其千法以上
 - 五千法ヲナル時ハ正本ノ報酬及其他ノ入費トシテ百ニ付一法
 - 半ヲ徵收ス貸金ノ五千法以上ナル時ハ報酬及諸入費ヲ合シテ百
 - ニ付三法ヲ徵收ス
- 乙 業務ヲ公證人ニ因テ商議セサル時
 - 貸附金ノ千法以下ナル時ハ公證人ハ雙方ト協議スヘシ貸附金ノ
 - 千法以上五千法以下ナル時ハ正本ノ報酬及入費ヲ合シテ百ニ付
 - 一法ヲ徵收ス五千法以上ナル時ハ諸入費及報酬トシテ百ニ付二
 - 法二十五參ヲ徵收ス
- 丙 第三者ノ保證ハ其他登記稅ヲ加フ

クルトレ郡

貸借義務三公證人ヲ經ルモノ最少額元金ノ百ニ付二法
同 前ニ定メタル報酬ノ半額
信用貸 前ニ定メタル報酬ノ半額
記入書類ニ係ル立替金及報酬ハ前二項ノ外トス

義務

甲 公證人ヲ經テ資本ヲ供出シタル元金ノ三百法以下ナルモノ
ハ十法、元金ノ三百法以上ナルモノハ百ニ付一法
乙 公證人ヲ經スルテ資本ヲ供出シタル元金ノ三百法以下ナル
モノハ五法、元金ノ三百法以上三千法マテ百ニ付一法
一千八百五十二年十二月廿日ノ勅令ニ因ルモノ、外適用スヘキモノ
左ノ如シ

三千法以上一萬法マテ百ニ付キ五十參
一萬法以上四萬法マテ百ニ付キ〇法四分ノ一、四萬法以上〇法八分

信用貸

甲 五百法以下五法
乙 五百法以上三十法マテ百ニ付五十參
丙 三千法以上一萬法マテ百ニ付〇法四分ノ一
丁 一萬法以上十萬法マテ百ニ付〇法八分ノ一
戊 十萬法以上百ニ付〇法十六分ノ一

信用貸

正本ノ報酬最初ノ一萬法ニ付百ニ一法、次ノ二萬法ニ付百ニ〇法四分
分ノ三、次ノ三萬法ニ付百ニ〇法二分ノ一、次ノ四萬法ニ付〇法四分

千法マテハ最少額ヲ二十法トス
 千法ヨリ千五百法マテ 百ニ付四
 千五百法ヨリ二千法マテ 百ニ付三ト二分ノ一
 二千法ヨリ五萬法マテ 百ニ付三
 五萬法ヨリ十萬法マテ 百ニ付二ト二分ノ一
 其以上 百ニ付二ト四分ノ一手數料アレハ此外ナリトス
 信用貸 報酬及入費ヲ合セ
 千法マテハ最少額ヲ二十法トス
 千法ヨリ千五百法マテ 百ニ付三ト四分ノ一
 千五百法ヨリ二千法マテ 百ニ付二ト四分ノ三
 二千法ヨリ五千法マテ 百ニ付二ト四分ノ一
 五萬法ヨリ十萬法マテ 百ニ付二
 其以上 百ニ付二ト四分ノ三

信用貸

甲 千法以下ノ信用貸 報酬ハ協議スヘシ但十法以下タル可カラ
 ス
 乙 千法ヨリ五千法マテノ信用貸
 報酬ヲ百ニ付一ト定ム少ナクモ二十五法ヨリ以下タル可カラス
 丙 五千法以上ノ信用貸 五千法ヨリ二萬法マテ百ニ付〇、二分ノ
 一、二萬法以上百ニ付〇、四分ノ一 是レ皆報酬金トス
 書入質貸附
 甲 貸附ヲ公證人ニ因テ商議シ其金高五千法ニ越ルキハ諸稅諸入
 費及報酬トシテ百ニ付三ヲ徵收ス但書入質證書ノ費用ハ此外ナ
 リトス
 千法ヨリ五千法マテ報酬ノ百ニ付一ト二分ノ一トス千法以下ナ
 ルキハ公證人ハ雙方ト協議ス可キモノトス

乙 貸借ヲ公證人ニ因テ商議セサル時金額五千法以上ナレハ諸入
費報剛トシテ百ニ付二分ノ一ヲ徵收ス
一千法以上ハ公證人ト雙方ニ於テ協議スヘキモノトス

定期義務

書入質權ヲ成立セシムル定期義務讓渡
五百法マテハ一千八百五十一年十二月八日ノ勅令ヲ以テ定メル稅
額ニ因ル
五百法ヨリ千法マテハ其稅額ノ割合ニ因ル
千法ヨリ二千法マテハ 百ニ付五
二千法ヨリ五千法マテハ 百ニ付四
五千法ヨリ一萬法マテハ 百ニ付三
一萬法以上 百ニ付三

其他公證人ノ貸借ヲ商議シ其商議ノ爲メ手數、通信、旅行ヲ要シタル
ハ取立タル元金ノ百分ノ二ノ手數料ヲ拂フヲ以テ習慣トス一千
八百五十一年ノ稅額ハ本來所謂公證シタル證書ニアラサレハ適用
セサルナリ書類ノ編纂及記入ノ入費ニ關シタルモノニアラス

信用貸

書入質權ヲ付シタル信用貸證書二千法マテハ金高ノ割合ニ因ル
二千法ヨリ二千四百九十九法マテハ三十五法、二千五百法ヨリ二千九
百九十九法マテハ四十法
三千法ヨリ三千九百九十九法マテハ四十二法、五十法
四千法ヨリ四千九百九十九法マテハ五十法
五千法ヨリ五千九百九十九法マテハ五十五法
六千法ヨリ七千九百九十九法マテハ六十法
八千法ヨリ九千九百九十九法マテハ七十法
一萬法ヨリ一萬四千九百九十九法マテハ八十法

一萬五千法ヨリ一萬九千九百九十九法マテ九十法
 二萬法ヨリ三萬法マテ一百法
 以下之ニ依ヒ五百法ノ金高又ハ此金高ノ分數毎ニ十六法五十參ヲ
 加フ
 前ノ税額中ニ入ラサレテ左ノ如ク
 證書ノ入費、割合補足税、二局以上アレハ記入書類ノ入費、信用貸主二
 人以上アレハ補足ノ勝本費、負債主ニ交付スル勝本費、旅行、及奔走
 費、書入質權ノ成立セサル時ノ税額記入ノ費ヲ減ス
 ツールネー郡
 貸借、義務、信用貸、公證人ヲ經ルモノ
 千法マテハ百ニ付二、其餘ハ百ニ付一ト二分ノ一
 同
 記入書類ノ報酬ヲ除キ百ニ付一

報酬ノ最少額

六法

ツールネー郡

義務
 甲 公證人ニ因テ商議シタル貸附
 二千法以下ナルハハ 百ニ付二、報酬ハ金高ニ割合十五法ヲ最少
 額トス
 二千法ヨリ一萬法マテナルハハ 百ニ付一ト二分ノ一ニシテ報
 酬ハ其割合ニ因ル
 一萬法ヨリ二萬法マテナルハハ 諸入費及報酬トシテ百ニ付三
 ト二分ノ一ヲ徴收ス
 二萬法以上ナルハハ 諸入費及報酬トシテ百ニ付三ヲ徴收ス
 乙 公證人ニ因テ商議セサル貸附
 最初ハ二萬法ハ五法ノ最少額ヲ以テ百ニ付二分ノ一、二萬法ニ越

金高ハ百ニ付四分ノ一
書入質權ノ表、臨時立替金及保證ノ報酬ハ此中ニ合蓄セス
信用貸
義務ト同シ報酬但信用貸登記税及義務税ノ間ニ差アルホハ差引セ

ノトス

義務
イール郡

報酬ハ五千法マテハ百ニ付一、其以上百ニ付〇法七十五參、編纂公證
ニ因テ實金ヲ得タルホハ其公證人ハ百ニ付一ヲ越サル手数料ヲ受
ルヲ得ヘシ

家畜育養及衛生ニ係ル公開講義

比律悉ニ於テ

一千八百六十六年十二月廿八日

縣知事ニ訓令

家畜育養及衛生ニ係ル公開無酬義ノ講義ヲ開設スル所ノ本月廿七日
付ノ本官布達數部ヲ回送ス
此ノ講義ハ農業經濟ノ重要ナル部分即牧畜ノ十分ニ行ハレザル地方
ニ在テハ殊ニ有要ナルモノニ付キ嘗テ知事各官ト協議スル所アリタ
リ當時各官ニ注意セシメタル如ク此教育ハ程度ヲ限り地方ノ實況及
習慣ヲ明ニスルヲ務ムルニ非レハ好結果ヲ生セザラン
知事各官ハ此ノ講義ヲ開設スル爲メニ其縣ノ農業委員會ト協議アラ
シトテ要スル此ノ講義ハ新設ノモノニ係ル故ニ先ツ唯ダ縣内之一二ノ
地方ニ開設スルヲ以テ至當トス而シテ其開設ハ此ノ講義ノ最モ裨益
ヲ生シ最モ好結果ヲ得ルノ幸ヲ得可キ地方ヨリ始ムルヲ宜シトス且

ツ最モ其ノ講義ヲ擔當スルニ適シ此ノ有要ナル任務ニ當ルノ志望アル獸醫ヲ撰ブヲ要ス可シ本月廿四日ノ布達ノ紙尾ニ四部ニ分タル講義ノ科目案ヲ添ヘテ此ノ科目ハ注意ヲ引クニ適當ナル件々ヲ示ス爲ニ編纂シタルニ過キサルモノトス教師ハ其事項ヲ加除シテ變更ヲナスヲ得可シ其認定ハ一ニ教師ノ判定ニ委ス是レ其教師ハ何人ヨリモ能ク地方ノ必要ヲ知り之ヲ以テ其方針ト爲ス可クハナリ且ツ教師ノ科目并ニ講義ノ數ニ關シテハ農業委員會ト協議スルヲ要ス講義ハ本年冬期ヨリ開設アラントシ望ム可キカ故ニ農業委員會ヲシテ其ノ開設ニ要スル上申書ヲ各官ノ許ヘ出サシメテ要ス其講義ヲ開設スル地方ノ官廳ニ於テハ講義ヲ開クニ適當ナル場所ヲ供給スルヲ許セサル可ク且ツ講義ノ好結果ヲ期スルニ必要ナル同感ノ協力ヲ會社并ニ人民ヨリ得ンコトハ本官ノ豫想スル所ナリ

內務大臣 ア、エル、ペーザンデンペーレボーム 署名

內務大臣ハ

農業教育ニ係ル一千八百六十年七月十八日ノ法律第三條ヲ檢案シ

左ニ布達ス

第一條 一千八百六十年七月十八日ノ法律ニ因リ家畜育養及衛生ニ係ル公開無謝義ノ講義ヲ其ノ必要アリト認ムル農區ニ開設ス

第二條 此ノ講義ハ縣内農業委員會ノ指揮監督ヲ受ク之レヲ爲メ指名シタル獸醫之ヲ授ク

講義ヲ擔任スル獸醫ニハ報酬金ヲ給與ス

第三條 縣知事ハ本布達ノ施行ニ任ス

比律悉ニ於テ

一千八百六十六年十二月廿七日

ア、エル、ペーザンデンペーレボーム 署名

家畜育養及ヒ衛生ニ係ル公開講義

一般ノ科目

第一

用途適否ノ認定ニ於テ動物體格ノ重要ナルコト、家畜大哺乳動物年齡ノ研究、食用獸肉ノ處分法、食用獸重量ノ算定、乳牛ノ性質、破約物件ノ不良ニ係ル法律

第二

養育法 著目ス可キ原則、種獸ノ其子孫ノ性質ニ及ホス影響、遺傳質、易ラサルコト、病統ヲ引クコト

家畜改良ノ方法 獸種ヲ地方ヲ狀況ニ適當ナラシムルコト(地方ノ狀況ヲ指シ)

淘汰及ヒ雜交ノ比較價格、尻成獸種、其保育ニ善長ナル狀況、種獸ニ與

テ可キ手當、進化及雜交ノ比較價格、生レ出ラタル兒獸ニ與テ可キ手當

第三

食料 保育及ヒ產出ノ食料、獸類ノ發育及其產出ノ増殖并ニ獸種改良肥料ノ價格及耕作ニ係ル食料ノ影響、食料ノ研究、滋養ノ價格、準備、配與、

飼養法ノ變改、著目ス可キ原則、幼獸ノ衛生

第四

獸類ト生理學上ノ空氣ノ關係 獸舍内ノ空氣ヲ新鮮ニスルノ必要、獸舍ノ建築及ヒ整理、扇風法、消毒法、獸疫ノ時行テ可キ豫防法、梳粧(刷)ニ善惡取扱法、其獸類ノ健康ト價格トニ及テ影響

蹄鐵術公開講義

内務大臣ハ

蹄鐵術公開講義ヲ聽受シタル者ニ許スニ其識得ヲ證明セシメテ合格證書ヲ受ルカ爲メ内務大臣ノ任命シタル検査官ニ願出スルヲ以テシタル一千八百六十三年四月十六日ノ本省布達ヲ再檢シ此布達ニ因リ授與シタル證書ヲ以テシテ獸醫ノ開業ヲ爲スニ係ル一
千八百五十年六月十一日ノ法律ヲ犯セル者アルニ因リ
官立獸醫學校長ノ報告ヲ檢接シ

布達ス

第一條 一千八百六十三年四月十六日ノ本省布達ハ廢止トス
第二條 政府ノ許可ヲ以テ蹄鐵術公開講義ヲ開ク者ハ其聽聞者ヲシテ理論及ビ實業試驗ヲ受ケシメ此ノ講義ヲ聽聞シテ識得シタルヲ證明ス可キ證書ヲ授與スルヲ得
其證書ノ書式ハ内務省ヨリ交付スベシ

比律悉ニ於テ

一千八百七十五年十二月十六日

署名

內務省 蹄鐵術公開講義

試驗 合格證書

內務大臣ハ

農業教育ニ係ル一千八百六十年七月十八日ノ法律ヲ檢按シ
官立獸醫學校ニ於テ蹄鐵術ノ公開講義ヲ開設スル所ノ去ル一月九日
本省布達ヲ檢按シ

布達ス

第一條 官立獸醫學校内ニ開設セル蹄鐵術公開講義ヲ聽受シタル者
ハ其識得ヲ證明セシメテ合格證書ヲ受ル爲メニ內務大臣任命スル
所ノ検査官ニ願出スルヲ得

第二條 試驗ハ口頭及實業ノ二種トス

口頭試驗ニ於テハ受験者ニ馬足ノ構造及ヒ鐵具ニ係ル理論上ノ問
題ヲ發ス試驗時間ハ十五分時タルヘシ
此試驗ニ及第シタル者ハ抽籤法ニ因リ其當レル鐵ヲ鍛鍊シテ裝着

スルヲ目的トスル實業ヲ執ラシム

第三條 內務大臣ノ名ヲ以テ検査官ヨリ二種ノ試験ニ及第シタル者
ニ合格證書ヲ授與ス

第四條 試験ハ內務大臣定ムル所ノ日ニ之ヲ行フ

試験ノ日ニ出席セント欲スル者ハ五月十五日前ニ官立獸醫學校長
ノ許ニ至リ其姓名ノ登記ヲ請フヘシ

第五條 前條定ムル所ハ政府ノ許可ヲ受ケテ開設シタル蹄鐵術公開
講義ヲ聽聞シタル者ニ適用スヘシ

第六條 前條ノ利益ヲ享ケント欲スル者ハ其講義ヲ聽聞スル教師ノ
許ニ至テ其姓名ノ登記ヲ請フヘシ

教師ハ五月十五日前ニ其姓名簿ヲ官立獸醫學校長ニ回送スヘシ
第七條 試験ヲ受ルノ許可ヲ得タル者ハ試験ヲ受ルカ爲メ學校ニ出
頭スル日ノ通知ヲ校長ヨリ受クヘシ

第八條 蹄鐵術ノ講義ヲ少クモ全一期聽聞シタル者ニ非レハ試験ヲ

受ルヲ許サス

比律悉ニ於テ

一千八百六十三年四月十六日

ア、エ、ル、ベ、イ、ウ、ア、ン、テ、ン、ペ、レ、ポ、ー、ム 署名

(一千八百八十五年九月二十九日發行第二百七十二號白耳義「モ」ニト
「ル」ノ名 拔萃)

農商工務省

農業巡回教師

試験所 組織ノ令達

白耳義國王

レヲポルド二世ハ

現在ノ人ニ告ケ將來ノ人ニ示ス

我農商工務大臣ノ稟告ニ因リ

令達ス

第一條 農商工務省中ニ農業巡回教師ノ一團ヲ置ク

事務ノ必要ニ因リ其團中ニ本官九人及助官若干ヲ置ク

第二條 農業巡回教師ハ令達ヲ以テ任命ス第一回ノ任命ハ學業證書

ヲ有スル農要工師ニ在テハ一年ヲ一期トシ其他ノ農學士ニ在テハ

二年ヲ一期トシ假任ノ名義ヲ以テス
 任命ノ令達ヲ以テ其住所ヲ定ム
 農業巡回教師ノ俸給ハ下級ヲ三千五百法一法ハルツト中級ヲ四千
 法トシ上級ヲ四千五百法ト定ム
 在職四年及八年ノ後中級俸又ハ上級俸ヲ給スルヲ得
 前項ニ因ラス異例ノ名義ヲ以テ中級法又ハ上級俸ヲ既往ノ著明ナ
 ル事務又ハ學術上ノ名聲ニ因テ特ニ秀テタル農業巡回教師ニ給ス
 ルヲアルヘシ
 農業巡回教師ニハ旅費トシテ年々七百五十法ノ金額ヲ給與ス
 助教巡回教師ハ二千六百法ノ下級俸及三千法ノ上級俸其他五百法
 ノ旅費ヲ給スヘシ
 旅費トシテ巡回教師ニ給スル金額ハ證明表ニ因リ三ヶ月毎ニ交付
 スヘシ
 第三條 高等ノ學業ヲ修メタル後授與スル農要工師ノ證書ヲ有スル

者ニ非レハ農業巡回教師ノ國中ニ任命スルヲ得ス但農學ノ事ニ於
 テ其知識ノ著明ナル證左アリ且ツ農業工務大臣ノ任命スル特別檢
 査官ノ目前ニ於テ同大臣定ムル所ノ科目ニ從ヒ二ヶ年内ニ試験ヲ
 受ルイテ誓約スル者ハ本規則ニ因ラザルヲ得ベシ
 第四條 農商工務大臣ハ其緊要ト認ムル場合ニ於テハ規程ヲ定メテ
 證書ヲ有スル候補者ニ公開競争試験ヲ施スヲ得
 第五條 農業巡回教師ハ農要學術ノ教科イシヤク及ヒ方法ヲ實際ニ行フベシ
 民間ニ廣布スルヲ以テ其重ナル任務トシ直チニ耕作者ニ接シ無謝
 義ニテ其請求スル教示ヲ之ニ與ヘ其擔當區内ニ於テ巡回農業講師
 ノ職務ヲ執リ少シモ州内ノ五郡ニ於テ其地方ニ適用スベキ農要學
 術又ハ實業ノ一科ニ係ル完備ノ教授ヲ施スノ講席ヲ開クモノトス
 第六條 農業巡回教師ノ指揮ヲ以テ組織スベキ試驗所ヲ各地方ニ設
 置シテ耕作者ノ實業教育ニ供スベシ
 第七條 農業視察官ハ農業巡回教師ノ直轄ノ長ニシテ巡回教師ハ其

任務ヲ盡スニ必要ナル訓示ヲ視察官ヨリ受クベシ

第八條 農業巡回教師ハ行政ノ官衙在州農業委員會ノ會員及其擔當

区内ノ農業會社及農會ト通信スルモノトス

第九條 農商工務大臣ハ左ノ事項ヲ定ムル爲メニ必要ノ條規ヲ設ク
ベシ

甲 農業巡回教師ノ事務其行政官トノ關係及之ニ委任シタル地
方ノ職制

乙 農業巡回教師及其他何人ヲ論セス特別ノ項目ニ係リ開クベ
キ講義ノ科目

丙 試験所ノ組織其設置ノ場所及其改良ノ條項

第十條 我農商工務大臣ハ本令達ノ施行ニ任ス

一千八百八十五年九月二十六日比律悉ニ於ナス

レヲホルド

奉勅

農商工務大臣

シユヴァリエー、ド、モロー署名

農業巡回教師團 任命

白耳義國王レナポルト第二世ハ

現在ノ人ニ告ケ將來ノ人ニ示ス

農業巡回教師團ノ組織ニ係ル一千八百八十五年九月二十六日ノ令達
ヲ檢按シ

我農商工務大臣ノ稟告ニ因リ

令達ス

第一條 農業巡回教師ヲ任命スル左ノ如シ

フランクトル地方

甲部

東フランドル

假任名義

ホントニス農業講師マルレー(ア、ソ)氏

其住所ハガンニ定ム

カンヒース地方

甲部

アンヴェル州

本任名義

舊ツル農學校學位證書所有者現今メルンスフラー、ウチルテル及
ホーグストラーテンノ慈惠農業殖民地ノ耕作長ヴァントブユツ
氏

其住所ハチニルフニ定ム

乙部

ランブール州

假任名義

在トングルルヴァン農業大學校ノ學位證書ヲ有スル農要工師
ヴァンデリスト氏

其住所ハハツセルニ定ム

アラバン地方

假任名義

ウキルヴァムド府官立農業大學校學位證書所有者農要工師
ツルツカ
ンキコスターグ氏

其住所ハ本府ニ定ム

コンドロ地方

假任名義

トロゲー官立農業大學校學位證書所有者農業工師ビレー氏

其住所ハシネーニ定ム

アルダニス地方

假任名義

農學士、チンヤン區長ユベール(カミニー)氏

其住所ハ本區ニ定ム

フランドル(西フランドル)地方及リモン地方ノ農業巡回教師ノ任命
ハ追テ爲スベシ助教巡回教師ノ任命ニ於ケル亦同シ

第二條 農業巡回教師ハ一千八百八十五年九月二十八日ノ令達ヲ以
テ定メタル旅費ノ外ニ年々三千五百法ノ俸給ヲ受クベシ

ヴチートプット氏ノ俸給ハ四千法ニ定ム

第三條 我農商工務大臣ハ本令達ノ施行ニ任ス

一千八百八十五年九月二十八日比律悉ニ於テス

レヲホルド

農商工務大臣

奉勅

シユヴァリエー、ド、モロー署名

農商工務大臣ハ

農業巡回教師團ヲ設置シタル一千八百八十五年九月二十六日ノ王
令第一條ヲ檢按シ

布達ス

第一條 本布達ノ附録トシタル農業巡回教師ノ職ヲ行フベキ地方據
當區ノ表ヲ認可ス

第二條 農業巡回教師ハ農業學術ノ教科及方法ヲ實際ニ行フベク民
間ニ廣布スルヲ以テ特別ノ任務トス

因テ農業巡回教師ハ其擔當區内ノ耕作者ト常ニ直ニニ交接シ無謝
義ニテ必要ノ教示及參考事項ヲ之ニ與フルモノトス

農業巡回教師ハ農會、農業會社及耕作者ノ集會ニ參列シ村落ノ事業
農業博覽會定期大市場及日常市場ヲ巡見シ且ツ常設巡回講師ノ職
務ヲ行フモノトス

講義ハ順次擔當區内ノ諸農區ニ開キ年々少シモ一列内五農區ニ開

場スベシ其各區内ニ於テハ年々開場ノ講義ハ専門ノ件ニ係ル完備
ノ教授ヲ成シ其教授ハ地方ノ農業經濟ニ適應セシメ事宜ニ因テハ
試驗所ノ組織ト相結合セシムベシ

農業者ノ注意ハ特ニ牧場ノ整理及保存ニ要スル改良法ニ惹クテ要
ス

講義ノ要略科目ハ毎年ノ一月一日前ニ農商工務大臣ノ認可ヲ請フ
ベシ此科目ニハ集會ノ場所及日時ヲ示シ新聞紙ヲ以テ公告シ揭示
ヲ以テ區内ニ告知スベシ

小學教員ハ講義ニ列席スベシ講義ハ農會及農業會社ノ監保監督ニ附ス

第三條 試驗所及實証耕作ハ農業巡回教師ノ指揮ニ附ス巡回教師ハ
農業化學所ト耕作者トノ仲介者トナリ耕作者ヲシテ化學所ノ事業
ニ與カラシムルヲ任務メ厩肥及補足ノ肥料並ニ家畜ニ給スル食料
品ノ調合及分別アル使用法ニ係ル必要ノ説明及教示ヲ耕作者ニ與
フベシ

第四條 任務ノ目的擔當區ノ景況及需用ニ係ル詳細ノ報告ヲ農業巡回教師ヨリ政府ニ呈出スヘシ
農業巡回教師ハ毎月講義及試験所ノ景況ニ係ル簡略ノ報告ヲ農業視察官ニ送達スベシ其報告ノ要略ハ直チニ農商工務大臣ニ轉達スルモノトス

第五條 農業視察官ハ必要ト認ムルキハ農商工務大臣ノ許可ヲ以テ工師ヲ講義ニ招集スルヲ得

第六條 アンヅェル、フロウマンス、ブラハン、西フランドル、東フランドル及ランブールノ州ニ指名シタル農業巡回教師ハフランドル語ヲ解スルヲ證明スベキモノトス

一千八百八十五年九月二十八日比律悉ニ於テ

シユヅフリエー、ド、モロー署名

農業巡回教師團

甲 農業地方區ノ表

第一 フランドル地方 左ノ州ヲ包括ス

甲 東フランドル州

乙 西フランドル州

第二 カンピース地方 左ノ州ヲ包括ス

甲 アンウエル州

乙 ランブール州 但第四號(サントロン)第五號(トングル、シ

シヤン、シユサン、エ、ボルレ)及第六號(ローズ)ノ諸農區ヲ除ク

第三 フラハン地方 左ノ州ヲ包括ス

ブラハン州

第四 リモン地方 左ノ州ヲ包括ス

甲 ヘーファー州 但第十二號(メーボーモン及メルブルシ

ヤートー)農區ヲ除ク

乙 第一號(ナミュール、ノール)第二號(エグゼー)及第五號(シャ
ンブール)ノ諸農區ヲ包括スルサンブル河及ムーズ河ノ北
ニ在ルナミュール州ノ部分

丙 ムーズ河ノ左岸ニ在テ第一號(リエーシュ、シニード、ウエ
エスト)第三號(フェツクススタン)第四號(ホルローギユタピ
エール)第七號(ウアランム)第八號(アヴァンヌ)第九號(ラシダ
ン)第十號(マヨヘーポデギエー)及第十一號(ヘロン)ノ諸農區
ヲ包括スルリエーシュ州ノ部分

丁 第四號(サントロン)第五號(トングルシヤンシユサン、エ、
ホルレ)及第六號(ロー)ノ諸農區ヲ包括スルランブール州ノ
部分

第五
コンドロ地方 其包括左ノ如シ

甲 ムーズ河ノ右岸ニ在テ第一號(リエーシュ、ノール、エスト)
第二號(スライン)第五號(フレロンルーヴェーギーエー)第六號

(ダルハン)第十二號(ナンドラン)第十三號(フェルリエール)第
十四號(チーベルヘルヴ)第十五號(ヴェルヴェー、ランブー
ル、ザアン)第十六號(スバ、スタヴロー)ノ諸農區ヨリ成ルリエ
ーシュ州ノ部分

乙 第三號(ナミューシニード)第四號(アンダンヌ)第六號(ボッ
ス)第七號(チナン)第八號(ロシユフチール)第九號(ボイライン)
第十號(シエダンヌ)第十一號(シネー)第十二號(ヒリツアウフ
ール)第十三號(ヴァルクール)第十四號(フロレンヌ)第十五號
(クイザアン)ノ諸農區ヲ包括スルナミュール州ノ部分

丙 ヘーノー州ノ第十二農區(ボイモンシメー)及メルブルシ
ヤートー)

第六
アンダンヌ地方 左ノ州ヲ包括ス
リエーシュ州

乙 各官ニ屬スル地方及地方部分ノ表

第一 フランドル地方ハ農業巡回教師二名ヲシテ擔當セシム
其一名ノ擔當區ハ左ノ如キ

甲 東フランドル州

其第三者ハ

乙 西フランドル州

第二 カンヒーヌ地方ハ二名ノ巡回教師ヲシテ擔當セシム
其一名ノ擔當區ハ左ノ如キ

甲 アンウエル州

他ノ一名ハ

乙 ランフル州 但第四號(サントロン)第五號(トングハシ
シヤンヌ)ニサヌボルレ)及第六號(ロー)ノ諸農區ヲ除ク

第三 フラハン地方ハ一名ノ農業巡回教師ヲシテ擔當セシム

第四 リモン地方ハ二名ノ巡回教師ヲシテ擔當セシム
其一名ハ左ノ地方ヲ擔當トス

甲 ヘーノール州 但第十二農區(マメーボーモン)及メルブル
シヤード)ヲ除ク

乙 サンフル河及ムーズ河ノ北ニ在リテ第一號(ナミュール
ラール)第二號(エグゼ)及第五號(シヤンブル)ノ諸農區ヲ

丙 ムーズ河ノ左岸ニ在テ第一號(リエーヴユニユーイドウエ
スト)第三號(フェックストラ)第四號(ホルローギユニヒエー

ル)第七號(ウアレンム)第八號(アウエンヌ)第九號(ランデ)第
十號(シヨヘーボデギエー)及第十一號(ヘロン)ノ諸農區ヲ包
括スルリエージュ州ノ部分

丁 第四號(サントロン)第五號(トングル)シヤンヌ)ニサヌ
ボルレ)及第六號(ロー)ノ農區ヲ包括スルランノール州ノ部
分

第五

コンドロ地方ハ一名ノ農業巡回教師ヲシテ擔當セム其區域左ノ如シ

甲

ムース河ノ右岸ニ在テ第一號(リエージュノールエスト)第二號(スライン)第五號(フレロンルヴェーギエー)第六號(ダルハン)第十二號(ナンドラン)第十三號(フェルリエール)第十四號(チーメルヘルツ)第十五號(ウエルグヰエーランフール)第十六號(スバスタグロ)ノ諸農區ヲ包括スルリエーシツエ州ノ部分

乙

第三號(ナミエールシエード)第四號(アンデンヌ)第六號(ワツス)第七號(ギナン)第八號(ロシエフチール)第九號(ボウラ)第十號(メエギーヌ)第十一號(シネー)第十二號(フオリツ)第十三號(ウアルクトル)第十四號(フロレンヌ)第十五號(シューアン)ノ諸農區ヲ包括スルナミエール州ノ部分

丙

ヘーノール州ノ第十二農區(ボームンシメー及メルブルシヤレト)

第六

フルデンヌ地方 此地方ハ一名ノ巡回教師ヲシテ擔當セ

右ハ認可シテ一千八百八十五年九月二十八日ノ本省布達ノ附録トス

農商工務大臣

シニウアリエー、ド、ロモー署名

農商工務大臣ハ

農業巡回教師團ヲ設置シタル一千八百八十五年九月二十九日ノ王
令第九條及一千八百八十五年九月二十八日ノ本省布達第三條ヲ檢
核シテ

布達ス

- 第一條 耕作者ノ爲メ實證教育ヲ開設スベキ試驗所ヲ農業ノ必要ニ
因リ十分ナル箇所ニ設置ス少クモ一州ニ五ヶ所ヲ設置スベシ
試驗所ハ農會及農業會社ノ保護ニ附ス農會及農業會社ハ其設置ト
保存トニ協力シ與ラベキモノトス
- 第二條 農商工務大臣ハ試驗又ハ實證耕作ノ計畫ヲ裁決シ其目的ヲ
定ム耕作者ハ農業巡回教師ノ教示スル事項ニ因リ其監督ヲ受ケテ
自ラ業ヲ執ルベシ
- 第三條 實業試驗及學術實證ハ特ニ土地ノ組成及富度、豐饒元素還元
ノ法則、栽培ヲ最モ勸告スベキ植物ノ種類及變種ノ移植、改良器械ノ

使用ヲ目的トスベシ

- 經驗ノ中ニハ地方ニ從ヒ沼地ノ耕作、菓樹栽培術、造林術、養蜂術、食園
及製乳所ノ事業家畜ノ給食、飼育及肥滿ニ係ル試驗ヲモ包括ス
- 第四條 實證耕作設置ノ請願ハ農商工務大臣ニ出ダスベシ地方ノ農
會又ハ認可ヲ得タル農業會社ヨリ出ダスベキモノトス農會又ハ農
業會社ノ在ラサルカ又ハ其設置ノ必要ナル景況有ルキハ實證耕作
ハ私人ノ地、小學教員ノ園圃又ハ邑廳又ハ農業會社ヨリ供給スル土
地ニ開設スルヲ得
- 何レノ場合ヲ論セス試驗所ニ必要ナル土地園場ノ肥料手業ハ經驗
施行中無償ニテ政府ニ供出スルモノトス
- 第五條 試驗所及ヒ實證耕作ハ農業視察官及政府ノ監督ヲ受ケ農業
巡回教師ノ指揮スル所トス

一千八百八十五年九月二十八日比律悉ニ於テ

[Faint, mostly illegible text in the right-hand column]

(二千八百八十六年七月十三日發兌第百九十四號白耳義モニトール
拔萃)

農商工務省

比律悉一千八百八十六年七月七日

農業巡回教師ニ對スル訓令

經濟上ノ出來事ニ因リ白耳義ニ於テハ數年來農業ノ景況ナ一變シ物
價ニ變動ヲ生シテ人民ハ非常ノ困難ニ陥リタリ
回顧スレハ五十年前ニハ今日ノ如ク穀類及家畜ノ產出少フシテ我國
ノ需用ニ充ツルニ足ラス消廉品ノ不足ハ國外ヨリ輸入ヲ仰テ補ハサ
ルヲ得ザリシナリ然レモ當時ノ形勢ハ外國ノ競争ヲ恐ル、ニ足ラサ
ルカ如ク却テ唯々我國ニ欠乏スル食料品ノ量ヲ十分得ル能ハサルノ
悞レアリシモノトス輸入品ノ如キハ其溢出甚ク著明ナラサルヲ以テ
未ダ著シク農産ノ物價ニ影響ヲ及ホスニ至ラザリキ蓋シ物品ヲ產出
スル外國ニ於テハ交通ノ不便アリ船賃高價ニシテ直接定期ノ航路ナ

カリシテ以テ我國ニ於テ念頭ニ懸ルニ足ルノ競争ハ起ル能ハサリシ
 モノトス
 是ノ故ニ賣價モ亦低廉ナラス又一方ニ於テハ土地ノ賣價及賃價ハ後
 年ノ如キ額ニ上ラス工銀ハ低廉ナリシ故ニ其直接ノ結果ナル原價モ
 亦貴カラサリキ
 之ヲ概言スレハ賣價ハ其程度宜キヲ得原價ハ貴カラサリシナリ之ヲ
 當時ノ景況ノ性質トス然レモ此物情ハ前後二回ノ變遷ヲ以テ全ク一
 變ヒリ第一回ニ於テハ原價ノ騰貴セシテ見第二回ニ於テハ賣價ノ低
 減スルヲ見タリ
 賣價ノ最上極度ニ達シタルハ一千八百七十五年ノ前後ナリトス一千
 八百七十年ノ戦争ニ次キ工業繁榮ノ時期タル豐年ノ連續ハ農産ノ狀況
 ニ反動ヲ及ホシテ地價賃地料ハ大ニ騰貴シ職工ハ工業上ノ勞働ニ從
 事スル爲ニ農業上ノ勞働ヲ拋棄セシテ以テ工銀ハ一般ニ騰貴シタリ
 因アレハ必ス果アリノ理ニ因リ此經濟上ノ現象ハ產出者ノ收益ヲ減

シタルニ加フルニ他ノ機運ノ來テ尙ホ之ヲ減シ不幸ニモ變シテ產出
 者ノ損失トナルノ場合少カラサルニ至レリ
 海外ノ諸國下ノ諸國ニ於テ數多ナル鐵道ノ布設及航路ノ改良ハ商船ノ
 迅速ナル増加及船賃ノ低落ト相合シ亞墨利加、澳地利、インドスタン、ア
 ジヤンナール共和國魯西亞及匈牙利ノ產出者チシテ歐羅巴ノ市場
 ニ其產出品ノ巨大ナル過剩ヲ搬出スルヲ得セシメタルモノナリ其搬
 出アルヤ直チニ穀類及其他農産物價ノ低落スルヲ見タリ而シテ其運
 行ハ漸ク迅速ヲ加ヘ我國物産ノ原價ト賣價トノ間ニ幾シト餘隙ナキ
 ノ點ニ達シタリ爾來續出シテ常ニ絶ヘサル嘆訴ノ聲起リシハ此時ニ
 在リトス
 蓋シ其景況ハ今ヤ全ク一千八百七十三年ト同シカラス世上一般ナル
 變動ノ影響ニ因リテ原價ノ諸元素ハ著明ノ減價ヲ來シテ賃料ハ減シ
 テ工銀ハ低落シタリ然リ而シテ現今ノ物情ハ農民ノ休戚ニ關スルコ
 少カラス因テ國王ノ政府ハ英意其景況ノ恢復ヲ計ルノ途ニ在リトス

我國ニ向テ競争ヲ爲ス所ノ諸國ニ於テ農業上ニ係ル經濟ノ狀況ヲ檢査スレハ此諸國ノ我國ニ愈ルハ左ノ三項ニ在ルコトヲ容易ニ證明スヘシ

第一 土地ノ買價ノ低廉ナルコト

第二 土地ノ天然ニ豐饒ナルコト

第三 諸國ノ中大ニ器械ヲ使用スルモノアルコト

政府ハ土地ノ買價ヲ低減スル爲メニ行政ノ方途ニ因テ處分ヲ施スヲ得ス其低減ハ一般ノ利益ニアラスト信スルノ時ニ當テ豈ニ之カ計蓄ヲ爲スヘケンヤ抑々一般ノ產出ニ供給スル資本ノ消滅スルヲ見シテ其黨ヲモメ夫レ誰カアルヘキ何トナレハ國人ノ富度ノ減ズルハ政府ノ爲メニ損失ナレハナリ之ニ因テ之ヲ觀レハ原價ノ一要素タル土地ノ減價ヲ務ムルコト能ハサルナリ却テ常ニ其價格アルコトヲ願ハサル可ラス

且ツ夫レ我國ニ向テ競争スル所ノ諸國ニ於テ有スル此他ノ二利ニ向テ戰ハントハ兵器ヲキニ非ルナリ自然肥料及人造肥料ノ施用ニ因レ

ハ我國土地ノ平均收穫額ハ競争諸國ニ於テ得ル所ノ收穫額ニ越ニ其越ニルヤ少々ニ非ルナリ競争諸國ニ於テ化學肥料ヲ用フレハ費用ハ特ニ多キニ過クルニ至ルヘシ是ノ故ニ平均產出額ヲ増加スルコトハ此諸國ニ在テハ能クモ可ラサルノ事トス

我國ノ情勢ハ全ク之ニ異ナリトス白耳義ニ於テハ交通ノ路蜘蛛ノ網ノ如クナルカ故ニ土地ノ豐饒元素ヲ低價ニテ寒村僻遠ノ地ニマテ運搬スルヲ得ヘシ化學肥料ヲ適度ニ用フレハ費用ニ大ナル増加ヲ見ス

シテ「エクダール」ノ收穫平均額ヲ増加スルヲ得ルハ學術及經驗ニ因テ實證スル所ナリ之ニ因テ之ヲ觀レハ我國物產ノ原價ヲ減スルノ最良法ハ肥料ノ購入額ヲ増加セテ其收穫ヲ改良スルニアリトス他ノ一法ハ注意ヲ密ニシテ撰擇シ且ツ進化ノ方法ヲ以テシテ得ル種子ヲ用フレニアルナリ抑々人造肥料ノ用法ハ土地ニ業ヲ施スノ最良法ヲ採用セザレハ其効ハ多カラサルモノナリ是ノ故ニ器械ヲ用フルコトハ土地ニ豐饒元素ノ十分ナル量ヲ施スト同シク緊要ナリトス

改良耕作法ノ開發ハ左ノ二項ニ因テ得ヘシ
 第一 村落ノ人民中ニ合理的農業元素ヲ傳播セシムルコト
 第二 巨多ナル資本ノ使用
 國王ノ政府カ諸君ノ熱心ト盡力トニ倚頼シ諸君ヲテ悟得スル所アラシムルハ此希望ノ第一項ヲ實行スルニ在リ抑々諸君ハ民間傳播ノ二方法ヲ有スルナリ講義及實踐耕作ノ開設是レナリ
 農業講義ヲ開設シタルヤ既ニ久シトス此講義ハ經驗アル人之ヲ爲セリト雖也其今日マテ期待ナタル悉皆ノ結果ヲ生セサリシテ證明スルハ亦タ止ムテ得サルノ事ナリトス
 近ク寄テ事物ヲ檢査スレハ其事實ハ驚クヘキカ如クナラス如何ニ巧智ヲ人ト離ル小學校教育ノ外受テタルコトナキ聽講者ニ一回ニシテ進歩耕作法ヲ開發スルニ必要ナル諸般ノ事項ヲ約説シテ解セシムルコトハ能ハサルモノナリ此故ニ諸君ノ先任者(即ち農業師)ハ農業學術ノ或ル點ヲ説明スルニ止メザル可クヤリキ然リ而シテ講義ノ時日ハ相去ル

遠キヲ以テ聽講者ハ第二回ノ授業ヲ爲ス時ニ於テハ第一回ノ授業ヲ既ニ忘却シタルナリ
 必定教育ノ良好ナル結果ヲ生センニハ一定ナル產物ノ一支部ニ係ル悉皆ノ問題ヲ短時間ニテ悉皆包括スルノ方法ヲ以テテ互ニ關係アル講義ヲ連續シテ開クヲ要スルナリ抑々本官ノ此點ニ付キ諸君ノ注意ヲ惹クヲ緊急ト認メタルハ是レ農業巡回教師ヲ設置シタル理由ノ一ナリト信スレハナリ
 講師ノ聽講者ノ知人トナリテ其同感ヲ得ルノ術ヲ知ルハ講義成功ノ點ヨリ見レハ最大ナル緊要事トス夫レ諸君ハ農民ニ交テ生テ送ルヘキ人ナリ故ニ諸君ニハ農民ノ習慣及氣質ヲ知テ之ニ從ヒ其信用ヲ博スルニ必要トス耕作者ハ時アリテ新事ヲ好マサルモノナリ然レモ其疑心ハ過大ナル戒慎ニ過キサルモノトス農業巡回教師ハ小心職ヲ盡シ問題ノ出ツルアレハ熟考ノ後誤リナキチ心ニ保證スルニ非レハ之ニ答ヘスシテ耕作者ノ疑ヲ散スルノ術ヲ得ルチ宜シトス且ツ其耕作

者トノ關係ハ管ニ講義ノ集會ニ止マル可ラス宜シク使用ノ方法ヲ檢
 査シ又得タル結果ヲ認定スル爲メニ田野ヲ巡檢シ農會ノ集會ニ參同
 シ定期市場及日常市場ニ行テ耕作者ト言テ交フルノ機會ヲ求ムヘシ
 方法ノ宜キヲ得タル談話ハ學理ニ因テ與フル授業ヨリモ多ク結果ヲ
 生スルモノナリ
 農學教育ヲ明瞭正確ナラシムルニハ如何ニ注意ヲ密ニスルモ聽講者
 ノ一部ハ講義ノ意味ヲ解セサルヲ屢々アルヘシ諸君ハ農會ノ支部ト
 協議シ各地ニ土地所有主小作人ノ如キ唯ク農業ニ利害ノ關係アル人
 ノ小集會ヲ開設スルヲ得レハ其授業ニ好結果ヲ收ムルヲ得ヘシ此小
 團結ハ教授傳播及共勉ヲ發作地トナリ農業學術ノ嗜好ヲ生セシメ進
 歩ノ利器トナルヘシ農業巡回教師ノ授業ハ愛ニ在テ復習スヘシ耕作
 者ハ皆善良ナル教示ヲ與ヘ又ハ受ルノ機會ヲ得ヘシ後段ニモ言フ如
 シ此小團結ニ因テハ蓋シ他ノ目的即チ農業ノ興起ニ放着スヘシ此一
 事ハ暫ク措キ農會ノ事業ニ尙ホ大ナル勢力ヲ與フルヲ疑テ入レザル

ナリ而シテ農會及州置農業委員會ノ如ク最モ其地方ノ耕作者ニ利益
 アル條件ニ係ル事項ヲ巡回教師ニ供給スヘシ
 其事項ニ因リ諸君ハ毎年講義ノ組織、回数、及科目ニ係ル申請ヲ農務省
 ニ爲スヲ要スヘシ
 且シ諸君ハ據當地方ノ農家經濟ヲ精シク知ルヲ務ムヘシ因テハ少
 シモ毎年一回地方ノ中農業ノ中央タル各地ヲ巡檢シ農會又ハ支會ノ
 會長又ハ副長ト應答談話スルヲ必要トス
 諸君ノ講義及談話ヲシテ最好ノ結果ヲ生セシムルノ目的ヲ以テ諸君
 ノ本官ニ申請スヘキト信シタル方策ハ本官ノ皆認可スヘキ心算ナル
 ハ素ヨリ言ヲ待タサナリ但諸君ハ新事ヲ開始スルノ前ニ當省ノ意
 見ヲ聽クヲ至當トス
 諸君ノ農教ヲ民間ニ傳播スヘキ第二ノ方法ハ試驗所ノ設置ニ在テ存
 スルナリ
 試驗所ハ二類ニ分ツテ得ヘシ

第一 第一類中ハ既得ノ事實ヲ明カニシ傳播ノ目的ヲ以テ既ニ
 實行シテ豫メ結果ヲ知レル試驗ヲ再ヒスルノ用ヲ爲スモノヲ包括
 ス例トヘハ農學トハ某々ナル化學作用^{アクト}ノ某々ナル植物ノ生育ニ及
 ホス所ノ作用某々ナル性質ノ土地ニ要スル所ノ地味改良某々耕作
 ニ要スル事業ノ方法等ヲ取ルモノナリ等トス凡ソ此諸點ハ講義
 ノ尋常ナル目的ナリト雖モ耕作者ハ自ラ學術上ニ係ル證言ノ正精
 ナルコトヲ證明シ得サルヲ以テ常ニ精ク講義ノ意味ヲ解セザルナリ第
 一類ノ試驗所ヲ設置スルニ目的トスヘキハ耕作者ヲシテ此證明ヲ爲
 サシムルニアリトス蓋シ試驗所ト稱フルヲ以テ最モ正トスヘキ歟
 第二 第二類ノ試驗所ハ土地ノ成分ヲ檢定シ特別ノ方法ヲ以テ施
 用スヘキ肥料ノ豐饒力ヲ證明シ收穫ノ點ヨリ某々種ノ穀類ヲ試驗
 スルコト等ヲ以テ目的トス試驗所ヲ設置シテ豫メ得ヘキ結果ヲ知リ
 本來所謂第二類ノ試驗所ヲ以テシテハ其結果ハ豫メ見ルニ困難ナ
 ルカ又ハ見ル能ハサルカ二者其一ニ居リテ屢々盲摸^{ブレン}ヲ爲スヲ要ス

ルアルヘシ第一類ノモノハ既得ノ知識ヲ民間ニ傳播スルガ爲ニ設
 置シ第二類ノモノハ新タナル事實ヲ明晰ナラシメテ農業學術ノ前
 進ト農業ノ進歩トヲ助成スルニアリトス
 實驗所ハ農業巡回教師ノ施ス講義ノ基本トナリ補足ノ物タルヘシ百
 物ニ先テ設置スヘキモノハ之レナリ未タ經驗ナキ我國ノ耕作者ヲ時
 尙ホ早キニ經驗探討ノ路ニ驅リ入レサルヲ以テ宜シトス
 時尙ホ早キニ失スレハ耕作者ノ教トナラスシテ却テ之ヲシテ失望セ
 シムルノ悔アルヘシ之ニ救フヘキモノハ正確ニシテ證明シ易キ事實
 ノ小數ノミトス此目的ヲ達セント欲セハ必要ト認ムルニ於テハ同一
 地方ニ屢々ノ實驗試驗ヲ復スルノ勞ヲ吝ム可ラス
 本官ノ特ニ諸君ノ注意ヲ此點ニ惹クハ是レ諸君ノ内或ハ學校ノ記念
 ト慣習トニ誘惑セラル、モノナキヲ保スヘカヲサレハナリ今ヤ諸君
 ハ學術上ノ範圍内ニ非ラスシテ實業ノ範圍内ニアルコト<sup>(謂フハ農業ヲ爲
 實業ニ從事ス)</sup>又農業ニ於テハ工業ニ於ケル如ク過テアレハ必ス金錢ノ

損失アルヲ諸君ノ任務ハ我國ノ耕作者ニ金錢ヲ得ルノ方法ヲ教フルニアルヲ忘ル可ラサルナリ

此故ニ政府ハ費用ヲ支出シテ實驗所ヲ設置セントス概言スレハ實證試驗ハ次ノ五點ヲ目的トスヘシ

第一 生草及秣草ノ產出

第二 穀類

第三 食用植物、沼地耕作、工用植物

第四 倫作收穫物ノ耕作(倫作トハ主タル植物ヲ耕作スル甲期ト作ル他ノ植物ヲ云フ)

第五 上層地及下層地ノ器械耕作

諸君ハ農會又ハ前ニ言ヘル耕作者ノ小團結ト議シテ最モ外觀ニ著明ナル實證法ヲ撰フヲ以テ適宜トスヘシ本官ハ一千八百八十五年九月二十八日ノ本省布達ヲ以テ實驗所ノ設置ニ付キ注意スヘキ行政上ノ手續ヲ諸君ニ知ラシメタリ諸君ハ宜シ一農會毎ニ實驗所一ヶ所ヲ設置スルニ盡力スベシ然レモ一ヶ所ハ其最下敷ナリトス尙ホ其以下ノ設

置アルヲ希フヘキナリ希望ノ極點ヲ言ヘハ各耕作者ノ其業ノ開キ倫ニ實驗所又ハ市場ニ行テ自ラ證明ヲ爲シ得ルニ在ルヘシ

農業小團結ノ設置ハ講義ト同シ實驗所ノ教育ヲシテ良好ノ結果ヲ生セシムヘキモノナリ此小團結ヲ以テシテ意ヲ用フルアレハ農民ノ注意ハ常ニ衰フルヲナカルヘシ又小團結加入者ノ中ノ一名ハ注視シタル結果ヲ農業巡回教師ニ絶ヘス報道スルヲ得ヘシ

實驗所ハ最大ナル緊要物ニシテ既得ノ事實ヲ民間ニ傳播スルノ點ヨリ見レハ主ナル有要物ナリ然リ而シテ本來所謂試驗所モ亦甚ク著大ナル目的アルモノトス其目的ハ一定ノ地方ニ於テ使用スル耕作ノ方法ヲ改良スルニアリ如何ナル肥料如何ナル施業法如何ナル種子ハ最モ某々ノ土地ニ適スルカハ是レ發見スヘキノ事タリ但農作者ハ自己一身ノ満足ノ爲メニ勞働スルニ非ラスシテ其目的ハ必定可成的多ク報酬ヲ得ルニアルヲ忘ル可ラス

ヲ以テ大ナル緊要事トス
 農業巡回教師ハ一般ニ其目的ヲ達スルニ必要ノ助力勢援ヲ大家ナル
 耕作者ヨリ得ヘシト雖モ私人ノ發起ヲ以テ其試驗ノ開始アルヲ待ツ
 可ラス其有要事タルヲ示スルヲ要スルナリ本官ハ好テ言ハント
 ス其必要事タルヲ何ントナレハ農業學術ニ關シ大ニ實驗所ニ倚
 頼スルモノトスレハ試驗所ヲ以テ農業進歩ノ主ナル器械ト認メサル
 可ラサレハナリ
 諸君ハ實驗所ト試驗所トヲ設置スルヲ問ハス脱漏ス可ラサルノ一事
 アリ本官ハ此點ニ諸君ノ注意ヲ惹カントス原價ノ計算即チ是レナリ
 諸君ノ耕作者ニ實證セント欲スル所ハ多ク入費ヲ掛ケテ多量ノ産額
 ヲ得ルヲ是レナリ但原價ヲ減スルノ方法ヲ以テスヘキモノトス是ノ
 故ニ某々ノ肥料又ハ某々ノ種子ヲ用テ甚ダ美質ニシテ多量ナル産物
 ヲ得ルヲ實證スルヲ以テ未ダ足レリト爲ス可ラス宜シク支出シタル
 費用ト因テ得タル收入トノ精密ナル會計法ヲ立テ、原價ノ減シタル

ヲ證レ同一ノ耕作法ヲ以テテ尋常耕地ノ一「エクタール」ヨリ生スヘ
 キ收益ノ如何ヲ示スヲ要スルナリ
 此點ハ本官ノ切ニ望ム所ナリトス本官ハ會計法ニ係ル訓示ヲ嚴ニ遵
 守セサレハ實驗所試驗所共ニ予輩ノ期スル所ノ良効ヲ生ス可ラスト
 思料スルナリ
 凡ソ經濟ノ事ニ於テハ事理ヲ明ニスルノ員數ニ若クモノハアラサル
 ナリ農業講師ハ證明ノ宜キヲ得タル巨多ノ收益ノ外決シテ他ニ勢力
 アル餘據ヲ得ルヲ能ハサルヘシ
 此事ニ於テハ諸君ハ我國ノ耕作者ニ嚴正ノ簿記法ヲ用フヘキヲ勸
 告スルヲ務ムヘシ此簿記法ハ常ニアルナレ又存スルモ希望スヘキノ
 點ハ少カラサルナリ然レハ其簿記法ハ工業者及商人ニ於ケル如ク農
 業者ニモ亦必要ナリトス
 本官ハ農業地方ニ於テ巡回教師ノ教授ヲ復習スヘキ耕作者團結ノ設
 立ヲ促成スルノ有用事タルヲニ諸君ノ注意ヲ惹キタリ此團結ハ肥料

購入又ハ農作器械購入ノ爲メニ商人同業組合ノ如クニシテ設置セハ
尙ホ更ニ重要ナル用ヲ爲スヘシ
本官ハ此訓令ノ始ニ於テ耕作新法ノ開發ハ左ノ二項ニ因テ得ヘキ
ヲ言ヘリ

第一 農業學術ノ民間傳播

第二 多額資本ノ使用

講義及實驗所ノ設置ハ此二項ノ第一ヲ得ル爲メ諸君ノ使用ヲ得ル方
法ナリ

第二項ハ我目的ヲ達スルニ困難ナリトス然レモ政府ニ於テ研究シ農
業貸附法ヲ改良スル爲メ採用スヘキ方策ヲ除ケハ耕作者ノ結社ヲ以
テ少シモ一部分ハ其目的ヲ達スルヲ得ヘシ既ニ此目的ヲ以テテ組
合ヲ設ケタルモノ數多アリ其結果ハ今ノ時ニ在テ更ニ疑フヘキモノ
非ルナリ是ノ故ニ諸君ハ我國耕作者ノ注意ヲ結社ニ因テ得ル所ノ利
益ニ惹カンテ要ス然レモ又諸君ハ唯ダ理論上ヲ以テ其事ニ關係シ組

合ノ設置ニ甚ク干涉セサルヲ宜シトス本官ハ次回ノ訓令ヲ以テ此
目的ヲ再説スヘシ
言ヲ終ルニ臨ミ國王ノ政府ハ諸君ノ熱心ト盡力トニ大ニ倚頼スル
ヲ諸君ニ一言セントス

農商工務大臣

シニツアリエー、ド、モロー署名

(表) 農商工務省

第何號

何地方

試驗所

巡回教師事務局

者ノ住所	ケタル耕作	試驗所ヲ設	試驗ノ目的	探シタル	使用スヘキ	小分地ノ面費用略細表
			變種試驗ニ	必要ナル種	化學肥料ノ	積
			子ノ量數	組成及分量		

(表) 農商工務省

第何號	試驗所	何地方	巡回教師事務局
試驗者ノ	一ニエシタ		化學肥料
姓名及住	ルニ使用	一ニエシタ	ノ購入代
所試驗ノ	ルニ使用	ルニ得タ	價ヲ引キ
目的撰採	スル肥料	ル收穫高價	去リタル
ノ變種	重量	ノ代價	收穫ノ賣
			買代價
			備考

(二千八百八十一年三月二十日第七十九號白耳義新報ノ抜書)

内務省

モルランベルツノ工業兼圖書學校

規則ノ改正

内務大臣ハ

該大臣ニモルランベルツノ區會及ハイノ一縣會常置委員ト協議シ
 テモルランベルツニ工業兼圖書學校ヲ設立センカ爲メ必要ナル規
 程ヲ設クヘキヲ許可シタル一千八百七十一年十月十七日ノ敕令
 ヲ檢案シ、該學校ノ編成規則ヲ認可シタル一千八百七十一年十月十
 八日ノ省令ヲ檢案シ、一千八百八十一年二月四日ヲ以テハイノ一縣
 會常置委員ノ認可セシ一千八百八十一年一月十七日付該區々會ノ
 議決ヲ檢案シ

左ニ布達ス

第一條 一千八百七十一年十月十八日付ニ於ケルモルランベルツ工

業兼圖書學校ノ編成規則ハ之レヲ廢シ更ニ現布達ニ付録セル規則ノ主眼タル規定ヲ設ク

第二條 ハイノ一縣知事ハ現布達ノ執行ヲ任セラル、モノトス
一千八百八十一年二月二十三日比悉律ニ於テ

ゼー、ロラン、シャッマン署名

モルランベルツ工業兼圖書學校

編成規則

第一條 モルランベルツ區ノ負擔ニ依リ縣及政府ノ補助ヲ受ケテ
モルランベルツニ工業兼圖書學校ヲ設立スヘシ

本校ノ目的ハ工藝實施ノ爲ニ必要ナル智識ノ傳播ヲ圖ルニアリ
本校ノ教育ハ無謝儀トス

第一章 教育

第二條 本校ノ教育ニ合マルヘキ學科ハ左ノ如シ

初等算術、工業應用物理學、化學及重學ノ大意、鑛業、建築術、築造術、工業經濟、衛生術、全體畫學、描線畫學及工業應用畫學

第三條 本校ハ區分シテ之ヲ二部ト爲ス

第一 夜學部 此部ニ屬スル教育ハ特別ニモルランベルツノ職工及少年ノ爲ニ設クルモノナリ

第二 日曜學部 此部ニ屬スル教育ハ本區近傍各區ノ職工并事業ノ都合ニ依リ夜學ニ出席スルヲ得サル諸職工ノ爲ニ設クルモノナリ

第四條 教育ノ年限ハ第一部ニ在テハ五ケ年第二部ニ在テハ三ケ年トス

第一部ハ又之ヲ二部ニ小分ス

(甲) 豫備科(修學三ケ年)

(乙) 重學圖師科(修學二ケ年)

日曜學部モ亦之ヲ小分スルヲ左ノ如シ

- (丙) 礦業科(修學三ヶ年)
- (丁) 機械火夫科(修學三ヶ年)
- (戊) 建築及築造科(修學三ヶ年)
- (己) 全身術學科(修學三ヶ年)

第二章 管理、役員、職掌

第五條 本校ノ管理及監察ハ管理委員會ニ委任セララル、モノトス
 本校ノ役員ハ一名ノ校長及若干名ノ教師ヨリ成ルモノトス
 第六條 校長及教師ハ管理委員會ノ意見ニ依リ區會ヨリ任免セラル、モノトス而シテ任命ノ違ニ依リ其任命者ノ俸給ヲ定メラルヘシ
 又其任命及免職ハ縣會常置委員ノ意見ヲ問ヒ且内務大臣ノ認可ヲ受ケンコトヲ要ス

第七條 管理委員會ハ六名ノ議員ヨリ成ルモノニシテ其内二名ハ區會ヨリ二名ハ縣會常置委員ヨリ又二名ハ内務大臣ヨリ命セラル、モノトス而シテ區會并縣會常置委員ヨリ授ケタル任命ハ内務大臣ニ依テ

確任セラレンコトヲ要ス

管理委員會ハ其議員中ヨリ一名ノ議長ト一名ノ書記トヲ撰擧スヘシ然リト雖モ書記ハ其議員外ノ者ヲ撰擧スルコトヲ得ヘシ但シ此場合ニアリテハ書記ハ議決ノ權ヲ有セサルモノトス而シテ書記ハ又會計役ヲ兼務スルコトヲ得

第八條 縣知事及區長若シハ其代理者タル書記ハ該委員會ノ集會ニ臨席スルヲ必要ナリト判知スルキハ則チ之ニ出席スヘシ

此場合ニ在テ是レ等ノ官吏ハ議決ノ權ヲ以テ其集會ニ議長タルヘシ
 議決ハ多數ニ依テ行ハル、モノトス可否半數ニ分ル、ノ場合ニ於テハ議事ヲ次回ニ送ルヘシ次回ニ於テ可否半數ニ分ル、キハ議長之ヲ決スヘシ

第九條 管理委員ハ二年毎ニ其議員ノ半數ヲ改撰スヘシ
 此改撰ハ區會ヨリ命シタル一名ノ議員ト縣會常置委員ヨリ命シタル一名ノ議員ト内務大臣ヨリ命シタル一名ノ議員ト退職セシムルノ

方法ニ依テ之ヲ行フヘシ
 退職議員ノ受ケタル委任ハ之ヲ新更スルヲ得
 死去又ハ退職シタル議員ノ後任ヲ命セラレタル議員ハ其前任議員ノ
 受ケタル委任ノ目的ヲ完結スヘシ
 第十條 管理委員ハ少シトモ毎月一回其定ムル所ノ日時ニ於テ會議ヲ
 開クヘシ
 該委員ハ集會ノ決議ニ依リ又ハ縣知事、邑長若クハ其撰定議長ノ招集
 ニ應ジテ臨時ニ集會スヘシ
 該委員ハ少シトモ四名ノ議員或ハ其議長ノ一名ト三名ノ議員トノ出席
 スルニアラサレハ議決スルヲ得ス
 校長ハ管理委員ノ會議ニ出席スヘキ請求ニ應スヘシ
 第十一條 管理委員ハ役員ノ撰舉及學科ノ課目ニ付キ其意見ヲ開陳
 シ歲出入豫算表ノ草案ヲ調製シ、區會、縣會常置委員并内務大臣ノ認可
 ヲ經テ決算及内部ノ順序規則ヲ決定スヘシ而シテ該委員ハ修學及紀律

上ノ監察ヲ爲シ且教育ニ必要ナル器具及材料ノ購買ヲ命令及監督ス
 ヘシ

第十二條 管理委員會議員ハ必要ト判知スル時毎ニ學校ヲ巡視シテ
 生徒ニ質問シ又ハ質問セシメ而シテ其學科ニ正シク注意セルヤ又規則
 ノ能ク實施セラレヤ否ヤヲ監定スヘシ

該議員ハ可成的校長ヲシテ先導セシムルヲ要ス
 内務大臣及縣會常置委員ハ有益ト判知スル時毎ニ其特派員ニシム
 ル所ノ官吏ヲシテ學校ヲ檢閲セシムヘシ

第十三條 管理委員會議員ハ學校年度ノ終リニ臨ンテ校長及教師ト
 共ニ集會シ而シテ學校ノ情況ニ係ル談議ヲ爲シ且本校ノ利益ニ於テ設
 クルヲ得ヘキ方法ヲ示サンカ爲ニ改良會議ヲ開クヘシ
 此會議ヲ爲シタル後ニ區會ニ報告ヲ進達シ而シテ其寫ヲハ區會ノ注意
 書ト共ニ内務大臣ニ傳達スヘシ

第十四條 會計書記ハ書類ノ保管、會計及文書ノ保存ヲ任セラル、モ

ノトス
 第十五條 校長ハ修學上ノ指揮ト教育及紀律ニ關スル諸規則ノ執行トヲ任セラル、モノトス
 校長ハ諸器物、陳列品并藏書ノ監督ヲ爲スヘシ
 教員及生徒ハ校長ニ隸屬スヘキモノトス
 教師中ノ一人ヲ以テ校長ノ職ニ任スルヲ得
 第十六條 校長ハ教場ヲ巡視シ而シテ有益ト判知スルキ毎ニ生徒ニ質問シ又ハ之ニ質問セシムヘシ又校長ハ時間ノ用方ヲ規定シ且教師ト協議シテ學科ノ課目ヲ起案スヘシ
 此課目ハ管理委員ノ意見ヲ添ヘテ區會及內務大臣ニ送達シ其認可ヲ受クヘシ
 第十七條 校長欠席スルカ若クハ故障アルノ場合ニ於テハ一般ノ監察ニ係ル諸事件ニ在テハ一名ノ教師假ニ之カ代理ヲ爲スヘシ而シテ其補充員ノ指名ハ管理委員會ヨリ之ヲ爲スヘシ

第十八條 本校ノ役員ハ如何ナル請求書其他ノ書類ニモ意見書ヲ添ユヘキ校長ノ手ヲ經テ管理委員會ト交通ヲ爲スヘシ
 第十九條 教師ハ認可セラレタル學科ノ課目ヲ許可ヲ受ケスシテ變更スルヲ得ス而シテ教師ハ時間用方表ニ依テ定メタル日時ニ其教授ヲ施スヲ要ス
 教師ハ各々其教場ノ取締ヲ爲シ且之ニ委託セラレタル器物ノ責ニ任スルモノトス
 第二十條 教師欠席スルカ若クハ故障アルノ場合(若シ之レアラハニ於テハ校長ハ其假ノ代理ヲ命スヘシ然リト雖モ教師ノ欠席若シ十五日以上續ク可キキハ管理委員會ヨリ其補充員ノ指名ヲ爲スヘシ
 第三章 生徒
 第二十一條 總テ生徒ハ校長ノ(保管セル帳簿ニ各年氏名ヲ記入セシムルヲ要ス
 第二十二條 何人ヲ問ハス少ナクモ年齢ノ未タ十四年ニ滿タサルモ

ノ通常ノ讀ミ書キヲ知ラサルモノ及加減乗除ノ法ヲ知ラサルモノハ本校ノ生徒トシテ記入セララル、コトヲ得ス然レト雖モ管理委員ハ例外ノ場合ニ於テ年齢ノ免除ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二十五條 校長或ハ其委任ヲ受ケタル教師ハ生徒ノ能力ヲ證明シ而シテ之ニ入校ノ免許ヲ申渡スヘシ

管理委員會ニ申告セシメテ生徒ノ入校ヲ許シ又ハ之ヲ許サハルコトヲ得

第二十四條 生徒ハ之ヲ二種ニ區分ス即チ(第一)正則生徒(第二)自由生徒是レナリ

正則生徒ハ其屬シタル年級ノ總テノ學科ヲ嚴密ニ修ムルコトヲ要シ而シテ該生徒ノ賞與及卒業證書ヲ得ルカ爲ニ共進會ニ列スルコトヲ得ヘシ

自由生徒ハ校長或ハ管理委員ヨリ一科又ハ數科ヲ修ムルヘキコトヲ許可スヘシ然リト雖モ自由生徒ノ一タヒ本校ニ入ルヤ其規則ノ遵守ニ制

限セララル、コト更ニ正則生徒ニ異ナラサルモノトス

第二十五條 何人ヲ問ハス前年級ニ於テ教授セル學科ヲ知り得タルニアラザレハ其次ノ年級ノ學科ニ入ルコトヲ得ス

第二十六條 各年教師ハ共進會ノ結果ニ從ヒ成功ヲ以テ學科ヲ修メタルニ依テ一級昇進スヘキ能力アル生徒ノ名簿録ヲ調製スヘシ

此名簿録ハ校長ノ認可ヲ受ケ而シテ之ヲ校內ニ揭示スヘシ

第二十七條 上文ニ記載シタル甲、乙、丙、丁、戊(即チ全週ニ於ケル豫備科、全週ニ於ケル重學圖師科、日曜日ノ鑛業科、日曜日ノ機械火夫科、日曜日ノ建築及築造科)ノ各部ニ應シタル修學年限ノ終リニ於テ生徒ハ管理委員會ヨリ指命セル審査委員ノ席前ニ於テ試験ヲ受クヘシ而シテ其學力アリト判知セラレタルモノハ卒業證書ヲ受領スヘシ

此退學試験ハ各年學校年度ノ終リニ臨ミ本校ノ構内ニ於テ行フヘシ

第二十八條 通學證書ハ二三ノ學科ヲ正密ニ修メタル後チ學校ヲ退クノ際其請求ヲ爲ス所ノ生徒ニ校長ヨリ又之ヲ交付スルコトヲ得

第二十九條 卒業證書ヲ交付スルコトヲ任セラレタル審査委員ハ其中ニ本校ノ教員ニモ管理委員會ノ議員ニモアラサル人ヲ多ク合ムヘキ方法ニ依テ編成スヘキモノトス

該審査委員ハ校長ヲ以テ其委員長ト爲スヘシ

第三十條 退校試験ハ筆記及口述ニ依テ行ハル、モノトス

筆記ニ依テ説明スヘキ問題ハ試験ノ各課目毎ニ之ヲ受試者ニ授クルモノトス但シ書學ヲ除ク

數多ノ受試人ヲ同時ニ試験スルコトヲ得

各受試人ヨリ少ナクモ其期末ニ作りタル二箇ノ圖書ヲ審査委員ノ檢閱ニ供スヘキモノトス

第三十一條 點數ノ五分ノ一ハ之ヲ生徒一年間ノ勉勵及其答辯ニ歸スヘキモノトス

而シテ其殘餘ノ五分ノ四ハ又之ヲ口述試験ト筆記試験トニ分ツモノトス

書學科ニ在テハ點數ノ半ハ其年期ノ課業及勉勵ニ歸シ又半ハ第三十條ニ記載シタル二箇ノ作書ニ歸スヘキモノトス

第三十二條 受試人ハ諸科目ノ全體ニ付完全ナル一課業ニ課セラレタル點數ノ一半ヨリモ一點多キヲ得タルコトアラサレハ試験ニ十分セシモノト見做サルコトヲ得ル

第三十三條 校長及教師ハ内部順序ノ規則ニ從テ生徒ヲ罰ニ處スルコトヲ得ヘシ

第三十四條 生徒若シ其斷然タル斥除ヲ證明スヘキ性質ノ過失アルコトハ校長ノ意見ニ依リ管理委員會ヨリ其斥除ヲ申渡スヘシ

第三十五條 勉勵、進歩及品行ノ最優等ナル生徒ニハ學校年度ノ終リニ於テ書物器械等ヨリ成ル賞品ヲ給與スヘシ

校長ノ申告(若シ之レアラハ)ニ依リ管理委員會ハ賞品ノ分與ニ關スル規定ヲ設クヘシ而シテ此賞品授與式ハ十月ノ第一日曜日ト之ヲ定ムヘシ

第三章 歳出入豫算表及會計

第三十六條 管理委員會ハ各年九月一日前ニ本校ノ歲出入豫算表ヲ決定スヘシ

歲出入豫算表ハ區會、縣會常置委員及內務大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス

歲出入豫算表ニ含ムヘキモノハ左ノ如シ

甲 收入ノ部

第一 當區ノ支出金

第二 本縣及政府ヨリ受クヘキ補助金

第三 諸種ノ收入

乙 支出ノ部

第一 俸給

第二 教育器物并陳列品ノ保存及改良ニ必要ナル金額

第三 薪炭及燈火ノ費用

第四 諸小費、局費及生徒ニ賞品分與費

第三十七條 歲出入豫算表ニ於テ收入ノ部ニ記載セル金額ハ本區ノ貯金預リ所ニ拂込ムヘキモノトス

出費ハ管理委員長ノ檢印ヲ捺シ書記ノ與印シタル勘定書ニ依テ仕拂ヲ命令セラレ而シテ本區ノ會計役ヨリ支拂フモノトス

第三十八條 決算書ハ各年區會ニ於テ之ヲ製シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス

第三十九條 現規則ハ縣會常置委員及內務大臣ノ認可ヲ受ケ而シテ一千八百七十九年ヨリ全八十年ニ至ル學校年度ノ爲メニ實施スヘシ

右一千八百八十年十一月十九日管理委員會ノ會議ニ於テ決定ス

區長兼議長

ア、デ、ー、ム署名

書記

チ、ー、ユ、ビ、ン署名

右區會ニ於テ檢案及認可ス

一千八百八十一年一月十七日モルランベルツノ會議ニ於テ

區長

フ、デ、ー、ム署名

書記

ユ、ビ、ノ、ー署名

右ハイノ一縣會常置委員ニ於テ檢案及ヒ認可ス

一千八百八十一年二月四日モンノ會議ニ於テ

議長

チスバール、ド、ケルシロープ、ド、ダンテルゲーム署名

書記

チーギユストフランツワール署名

右一千八百八十一年二月二十三日ノ省令ニ付録スルカ爲メニ認可ス

内務大臣 セー、ロラン、ジャックマン署名

(千八百八十一年九月十六日ノ白耳義新報抜書)

内務省

ゴスリ一工業業學校

編成規則ノ認可

内務大臣ハ

ゴスリ一ノ地方ニ於テ工業業學校ノ編成ノ爲ニ必要ナル規定ヲゴスリ一區會ト協議シテ設クベキヲ内務大臣ニ許可セル一千八百八十一年九月三日ノ勅令ヲ檢案シ、一千八百八十年三月十三日ニ於ケルゴスリ一區會ノ議決ヲ檢案シ

左ニ布達ス

第一條 ゴスリ一工業業學校ノ編成規則ハ之ヲ認可シ左ニ之ヲ附録スルモノトス

第二條 ハイノ一縣知事ハ現布達ノ執行ニ任スルモノトス
一千八百八十一年九月十四日比悉律ニ於テ

ゴスリー工業學校規則

第一章 組織

第一條 ゴスリー市街ノ負擔ニ依リ其縣及政府ノ贊助ヲ以テゴスリ
ーニ工業學校ヲ設立スヘシ

第二條 本校ノ教育ニ含ムヘキ學科ハ左ノ如シ

國學及其工業ニ於ケル應用、佛國語學、數學、幾何學、物理學、化學、重學、簿
記法、採鑛術及工業經濟

第三條 修學ノ年限ハ三ヶ年ト爲ス

第二章 役員

第四條 本校ハ管理委員ノ注意ニ委任セラレ而シテ其役員ハ一名ノ校
長ト教師ヨリ成ルモノトス

第五條 校長及教師ハ管理委員ノ意見ニ基キ區會之ヲ任免スルモノ
トス

而シテ其任命及免職ハ縣會常置委員ノ意見ヲ問フタル後ニ内務大臣ノ

認可ヲ受クヘキモノトス
 第六條 管理委員會ハ其議長タルヘキ區長又ハ其派出員ト六名ノ議員トヨリ成ルモノトス而シテ其議員中ノ二名ハ區會ヨリ、二名ハ縣會常置委員ヨリ又二名ハ內務大臣ヨリ之ヲ命スルモノトス
 第七條 管理委員會ハ毎年其議員ノ半數ヲ新更スヘキモノトス
 第八條 管理委員會ハ毎ニ區會ヨリ命シタル議員一名ト縣會常置委員ヨリ命シタル議員一名ト內務大臣ヨリ命シタル議員一名トテ退職セシムヘシ
 退職ノ順序ハ抽籤ニ依テ之ヲ定ムヘシ
 退職議員ハ再撰セラルヘキモノトス
 第九條 死亡又ハ辭職シタル議員ノ後任ニ命セラレタル總テノ議員ハ其前任議員ノ任務ヲ完結スヘシ
 第十條 管理委員會ハ議長ノ召集ニ應ジテ集會ヲ爲スヘシ
 議長ハ若シ二名ノ議員ヨリ集會ノ請求ヲ爲スルハ八日以内ニ全議員

ヲ召集スヘシ
 管理委員會ハ若シ其議員ノ集會ニ出席セサルモノ多數ナルキハ議決スルコトヲ得ス
 然レモ若シ該委員會ノ召集充分ナル人員ヲ告グルニ至ラサルキハ又新ニ之ヲ召集シ而シテ後テ出席議員ノ多少ヲ問ハス再ヒ其日ノ議題ト爲リタル事件ニ付テ議決スルコトヲ得ヘシ
 議決ハ出席議員ノ多數決ニ依テ取ララル、モノトス但シ可否半數ニ分ル、ノ場合ニ於テハ議決ヲ破棄スヘキモノトス
 第十條 管理委員會ハ役員及科目上ノ事ニ付テ意見ヲ述ヘ、修業及紀律上ノ監察ヲ爲スモノトス
 管理委員會ハ歳出入豫算表ノ草案ヲ調製シ、決算ヲ確定シ而シテ區會ノ認可ヲ受クヘキ內務順序ノ規則ヲ設ク可キモノトス
 第十一條 管理委員會ハ其定員ノ外ニ一名ノ書記ヲ命スルコトヲ得
 第十二條 管理委員會ノ議員ハ其必要ナリト判知スルノ時毎ニ學校

ヲ巡視シ、生徒ニ質問シ又ハ質問セシメ而シ其科目ニ正シク意ヲ注ケルヤ又規則ノ能ク實行セラ、ヤヲ確知スヘシ

而シ該議員ハ學校ノ巡視中可成的校長ヲシテ先導ヲ爲サシムヘシ

第十三條 校長ハ學校年度ノ終リニ於テ教育ノ情勢、生徒ノ進歩及生
 活ノ結果ニ關シテ詳精ノ報告ヲ作り管理委員會ニ之ヲ進呈スヘシ

管理委員會ハ此報告ヲ檢査シ而シ後テ其意見ト注意トヲ付シテ之ヲ
 區會、縣會常置委員并内務大臣ニ送達スヘシ

第十四條 校長ハ有益ナリト判知スルノ時毎ニ幾回モ教場ヲ巡視シ
 又教育及紀律ニ關スル諸規定ノ施行ニ注意ヲ加フヘシ

陳列品及諸器物ノ保存方ハ總テ校長ニ委任セラル、モノトス

教員及生徒ハ校長ニ隸屬スヘキモノトス

校長ハ時間ノ用方ヲ規定シ且教師ト協議シテ學科ノ課目ヲ提供スヘ
 シ此課目ハ管理委員ノ意見ヲ付シテ區會及内務大臣ニ送致シ其認可
 ヲ受クヘキモノトス

第十五條 學校ノ役員ハ校長ヲ經テ管理委員ト交通ヲ爲スヘシ校長
 ハ如何ナル請願書又ハ書類ニモ其意見書ヲ添エヘキモノナリ

第十六條 教師ハ認可セラレタル學科ノ課目ヲ許可ヲ受ケスシテ變
 更スルコトヲ得ス而シ教師ハ時間用方表ニ依テ定ムル日ト時トニ於テ
 教授スルコトヲ要ス

教師故障アルノ場合(若シ之レアラハ)ニ於テハ校長ハ其假ノ代理ヲ命
 スヘシ

然リト雖モ教師ノ缺席若シ十五日以上續ク可キキハ其補欠員ノ指命
 ハ管理委員會ヨリ之ヲ爲ス可キモノトス

第十七條 内務大臣及ハインノ一縣會常置委員ハ好機會ナリト判知ス
 ルキハ其之カ爲ニ指名セント欲スル所ノ派出員ヲシテ學校ヲ檢閲セ
 シムヘシ

第三章 生徒

第十八條 正則生徒トナリテ學校ニ入ルコトヲ得ンニハ年齢少シト十

四年ニ達シ、普通ノ讀ミ書キヲ知リ且加減乗除ヲ知レルヲ要ス然リト雖ハ管理委員會ハ年齡十二年ヨリ十四年マテノ生徒ニシテ學科ヲ修ムルニ適當ナリト判知シタルモノニ入校ヲ許ルスト得ヘシ生徒ノ能力ハ其入校前コ於テ校長若クハ校長ノ委任ヲ受ケタル教師ニ依テ證明セラル、モノトス

第十九條 管理委員會ハ本校ノ一學科又ハ數學科ヲ修メンコト希望スル所ノ諸人ニハ歌場ノ都合宜シキニ從ヒ且元來謂フ所ノ生徒ヲ常ニ先入セシメ猶ホ餘地アラハ之ヲ許スト得ヘシ

管理委員會ハ又生徒ノ二三ノ學科ヲ修メサルコトヲ許可スルヲ得ヘシ本市街ノ生徒ニ在テハ無費通學ヲ許スモノトス

本市街ノ外ナル諸地方ノ生徒ハ月謝六法ヲ納ムヘシ

第二十條 總テ生徒ハ第一等級又ハ第二等級ニ於テ教授セル科程ヲ十分ニ知リタルコトヲ證明スヘキ昇級試驗ヲ受ケタル後ニアラサレハ第二等級又ハ第三等級ノ學科ニ入ルコトヲ得ス

卒業證書ハ生徒ノ其學業ヲ終リ第二等級及第三等級ノ學科ニ於テ教授セル課程ヲ了知セル實證アルモノニ交付スルコトヲ得

唯一學科ノミヲ修ムルコトヲ許ルサレタル生徒モ亦學校年度ノ終リニ於テ試驗ノ後テ此學科ノ特別教育ヲ受ケシコトヲ證明セル證書ヲ受領スルコトヲ得ヘシ

第二十一條 卒業證書ヲ得ンカ爲ニ受クヘキ退學試驗ハ學校年度ノ終リニ於テ筆記及口述ニ於テ行ハルヘシ

試驗科目(書學ヲ除ク)ノ各項ニ關スル問題ハ筆記ヲ以テ受験者ニ授ケルモノトス

筆記ノ試驗ハ三時間ニ涉ルコトヲ得

口述ノ試驗ハ各受験者ノ爲ニ半時間ナリトス

數多ノ受験者ヲ全時ニ試驗スルコトヲ得

昇級試驗或ハ退校試驗ニ於テハ少ナクハ各受験者ノ製圖二種ヲ審査委員ノ判定ニ付スヘキモノトス

第二十二條 受験者ハ諸種ノ科目ニ付其各項ニ課定シタル點數ノ平均ヨリモ一點宛多キヲ得タルモノニアラサレハ十分試験ニ及第セシモノト見做サルハコトナシ

第二十三條 校長及教師ハ内部順序ノ規則ニ循テ生徒ヲ罰ニ處スルヲ得

第二十四條 生徒一時ノ斥除ハ校長ヨリ申渡シ斷定シタル退校ハ校長ノ申告ニ依テ管理委員會ノ外之ヲ申渡スヲ得ス

中學校又ハ小學校ヨリ斥除セラレタル總テノ生徒ハ管理委員會ノ特別許可ヲ受ケスシテ本校ニ通學シ又ハ其一學科ヲ學ブヲ得ス

第二十五條 勉勵進歩及品行ノ優等ナル生徒ニハ書物、算術道具等ニ於ケル賞與品ヲ學校年度ノ終リニ於テ授與スルヲ得

管理委員會ハ校長ノ申告ニ依リ賞與品ノ分配方(若シ此事ノ存スルアラハ)ニ關スル規則ヲ定ムヘシ

第四章 會計

第二十六條 歲出入豫算表ハ各年九月一日前ニ管理委員ニ於テ之ヲ作り區會、縣會常置委員及内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
該豫算表ニ合ムヘキ項目ハ左ノ如シ

甲 收入ノ部

第一 當市街ノ支出金

第二 政府及本縣ノ補助金

第三 諸種ノ收入

乙 支出ノ部

第一 俸給

第二 教育ノ器具、雛形及陳列品ノ購入、保存及改良ノ爲メ必要ナル金額

第三 薪炭及燈火費用

第四 局費、賞與ノ分配費等

第二十七條 右豫算表ノ收入ノ部ニ載セタル金額ハ當區貯金預リ所

ニ拂ヒ込ムヘシ
 費用ハ管理委員會議長又ハ其委任シタル議員ノ署名シタル仕拂切符
 ニ依テ支辨シ而シテ當區會計役ヨリ正金ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス
 第二十八條 各年決算書ハ區會ニ於テ之ヲ爲シ而シテ管理委員會ノ意
 見書ニ付シ縣會常置委員ノ意見ヲ問フタル上内務大臣ノ認可ヲ受ク
 右一千八百八十一年九月十四日ノ省令ニ付録スルカ爲ニ檢案及認可
 ス

内務大臣 セー、ロラン、シヤンシマン署名

比律悉、ポアンソン町第二十四番館ニ設立シタル女子職業學校

編成規則

一千八百八十三年一月十日ノ勅令ハ以テ内務大臣ニ比律悉ノ區廳ト
 協議シテ全市街ポアンソン町ニ女子職業學校ヲ編成スルカ爲メ必要
 ナル方法ヲ設クヘキヲ許可セリ

内務大臣ハ

該大臣ニ比律悉ノ區廳ト協議シテ全市街ポアンソン町ニ女子職業
 學校ヲ編成スルカ爲メ必要ナル方法ヲ設クヘキヲ許可シタル一
 千八百八十三年一月十日ノ勅令ヲ檢案シ、一千八百八十二年九月十
 八日比律悉ノ區會ニ於テ認可シ而シテ全年十二月二十三日ブラバン
 ノ縣會開設中常置委員ニ於テ認可シタル前記學校ノ編成規則ヲ檢
 案シ

左ニ布達ス

第一條 比律悉、ポアンソン町ニ設立シタル女子職業學校ノ規則ハ左

ノ附録ノ通り之ヲ認可ス

第二條 プラバン縣知事ハ現布達ノ執行ヲ任セラル、モノトス
一千八百八十三年一月十一日比律悉ニ於テ

ゼー、ロラン、ジャックマン署名

比律悉、ポアンソン町第二十四番館ニ設立シタル女子職業學校

編成規則

第一章 教育

第一條 當職業學校ノ教育ハ諸生徒ノ爲ニ止ムヲ得サル所ノ普通學科ト婦人ノ從事スヘキ諸種ノ手仕事及職業ヲ授クヘキ特別ノ學科トヲ含ムモノトス
修學ノ年限ハ三ヶ年トス而シテ此年限ハ其滿期ニ至リテ二三ノ課目ヲ修メシカ爲ニ延期スルヲ得
第二條 普通學科ノ目的トスル所ハ左ノ如シ

第一 佛語學

第二 フランドル語學

第三 數學

第四 史學及地理學

第五 博物學大意

第六 修身教育、衛生術及家内經濟學ノ大意

第七 書法、書學及裁縫

第八 唱歌并體操

第三條 特別學科ニ合マルヘキモノハ左ノ如シ

第一 商業(簿記法、商業上數學ノ應用、英語學并商業用ノ記事)

第二 工業應用ノ書學、衣服裁縫、布巾裁縫及諸種ノ手仕事

本校ノ管理會議ハ若シ有益ト判知スルキハ當市街并政府ノ許可ヲ經テ此他ノ普通或ハ特別學科ヲ設クルヲ得ヘシ

第二章 役員○管理及監察

第四條 當職業學校ノ役員ハ管理會議員、校長女、修身教師女、職業教師女、及學術教師男ヨリ成ルモノトス

第五條 管理會議ハ當然其名譽議長タルヘキ學務掛リ書記ヲ除クノ外十名ヨリ少ナカラス十五名ヨリ多カラサル議員ヨリ成ルモノトス而シテ此議員ハ區長及書記ノ集會ニ依テ當職業學校ノ加入者中ヨリ之ヲ任命シ而シテ內務大臣ニ依テ許諾セラレタルモノトス

管理會議ハ各年其全議員ノ三分ノ一ヲ新更スヘシ

第六條 管理會議ハ其議員中ヨリ一名ノ議長、二名ノ副議長、一名ノ會計役及二名ノ書記ヲ選舉スヘシ

第七條 管理會議ハ各年七月中ニ當職業學校加入者ノ總會ヲ召集シ而シテ之ニ翌年度ニ係ル歳出入豫算表ノ草案ト共ニ本校ノ道德及理財上ノ情況ニ關スル報告ヲ交付スヘシ而シテ此報告ハ區會及內務大臣ニ送致スヘキモノトス

前文ノ總會ニ干與セシニハ本校扶助ノ爲メニ年々三十法ノ加入金ヲ

拂込ミ若クハ本校ノ維持ノ爲ニ設立シタル一會社ノ代表人タルヲトス

第八條 管理會議ハ議長ノ召集ニ應シ又其召集ナキニ於テハ議員二名ノ請求ニ依テ集會ヲ開クヘシ該會議ハ少ナクモ五名ノ議員出席スルニアラサレハ議決スルヲ得ス

總テ議決中可否半數ニ分ル、ノ場合ニ於テハ議長其可否ヲ決スルモノトス

第九條 區會ハ管理會議ノ申告ニ依リ且政府ヨリ許諾ヲ受クヘキ條件ニ循テ本校ノ役員ヲ任免シ、歳出入豫算表及決算書ヲ調製シ、内部順序ノ規則、學科ノ課目及時間ノ用方ヲ決定シ、面シテ修學及紀律上ノ監察ヲ爲スモノトス

區會ハ監督女及主計女會議ト連合スルヲ得

歳出入豫算表、決算書、學科課目、時間ノ用方表ハ區會及內務大臣ヨリ認可ヲ受クルヲ要ス

第十條 管理會議々員ハ必要ナリト判知スルノ時毎ニ學校ヲ巡視シ而シテ諸生徒ノ課目ニ正シク注意セルヤ又規則ノ能ク實施セラル、ヤ否ヲ監定スヘシ

第十一條 管理會議々員ハ學校年度ノ終リニ於テ學校ノ情勢ニ付キ談示ヲ爲シ且本校ノ利益ニ於テ設ケラルヘキ方法ヲ示サンカ爲メ教授役ノ議員ト共ニ集會スヘシ

第十二條 校長女ハ修學上ノ指揮ト教育及紀律ニ關スル諸規定ノ執行トヲ任セラル、モノトス

第十三條 本校ノ役員ハ校長女ヲ經テ管理會議ト書信ヲ通スヘシ但校長女ハ如何ナル請求書又ハ筆記類ニモ其意見書ヲ添ユヘキモノトス

第十四條 校長女ハ學校年度ノ終リニ於テ教員及學科ノ情勢ニ係ル報告ヲ管理會議ニ進達スヘシ

第十五條 教師女及助教師女ハ教育ノ目的及勉強ノ要務タルヘキ科

目ヲ日々示シテ以テ日課ヲ完結スヘシ

第十六條 修身教師女又ハ學術教師男ノ缺席シ若クハ故障アルノ場合(若シ之レアラハ)ニ於テハ校長女ハ其假リノ代理ヲ命スヘシ

然レモ若シ其欠席ノ十五日以上續クヘキハ管理會議ヨリ其補充員ノ指名ヲ爲スヘシ

第十七條 內務大臣ハ有益ナリト判知スルノ時毎ニ學校及工場ヲ檢閱セシムヘシ

第十八條 本校ノ修身教師女及學術教師男ノ人員ハ生徒ノ人員ニ應シテ之ヲ定ムヘシ

教員ハ當時普通科并商業科ノ教育ヲ任セラルタル教師女及助教師女八名、書學教師男一名、衣服裁縫教師女三名、縫物及布巾裁縫教師女一名、縫箔教師女一名、英語學教師女一名、獨語學教師女一名、唱歌教師女一名トス

第三章 生徒、入校ノ資格、給費生

第十九條 諸生徒ノ入校ヲ得ンニハ年齢少クモ十二年ニ達シ而シテ區内ノ小學校ニ於テ教ユル學識ヲ具備セルヲ要ス

生徒ノ學識ハ其入校前校長女ニ依テ證明スヘキモノトス

第二十條 生徒ハ何レモ第一年級若クハ第二年級ノ學科ニ於テ教授スル科目ヲ了知シタルニアラザレハ第二年級若クハ第三年級ノ學科ニ入ルヲ得ス

第二十一條 卒業證書ハ生徒ノ修學ヲ終リタル上之レカ爲ニ制定シタル試験ヲ受ケタルモノニ交付スルヲ得

第二十二條 昇級及退學ノ試験ハ管理會議ニ依テ決定シタル規定ニ循テ行ハル、モノトス

第二十三條 生徒ノ謝儀ハ管理會議ニ依テ定ムルモノトス但シ謝金ハ三ヶ月分宛前納スヘキモノトス

第二十四條 管理會議ハ生徒人員ノ割合ニ應ジテ給費生ノ人員ヲ定ムヘシ而シテ年々七十五法ノ加入金ヲ納ムルモノハ給費生ノ定員ニ滿

ツル迄一名ノ給費生ヲ有スルノ權利アリトス

第二十五條 校長女修身教師女及學術教師男ハ内部順序規則ノ條項ニ循ヒ生徒ヲ罰ニ處スルヲ得

第二十六條 生徒若シ判然タル斥除ヲ證明スヘキ過失ヲ犯シタルハ校長女ノ意見ニ依リ管理會議ヨリ之ヲ申渡スヘシ

第二十七條 學校年度中ニ在テ生徒ノ勉勵、進歩及品行ヲ賞美センカ爲メ、管理會議ハ生徒ノ探檢遊行ヲ編成スヘシ

第四章 歳出入豫算表并會計

第二十八條 本校ノ歳出入豫算表ハ各年七月三十一日前ニ管理會議ニ於テ調製スヘキモノトス而シテ該表ハ區會及內務大臣ニ呈シテ其認可ヲ受クヘシ

右歳出入豫算表ニ含マルヘキモノハ左ノ如シ

甲 收入ノ部

第一 議員ニ賦課シタル費金ノ收入、人民ノ贈與金、生徒ノ謝金、本

- 校ノ爲ニ設ケタル祭典ノ臨時收入
- 第二 區ノ補助金及臨時ニ縣ノ補助金
- 第三 政府ノ補助金

乙 支出ノ部

- 第一 校長女教師男教師等ノ俸給
- 第二 教育用ノ器物及陳列品ノ保存改良并生徒ノ探檢遊行ニ必要ナル金額

第三 薪炭燈火等ノ費用

第二十九條 歲出入豫算表中收入ノ部ニ記載シタル金額ハ區内ノ貯金預リ所ニ拂ヒ込ムヘシ

右一千八百八十二年九月十八日ノ會議中比律悉ノ區會ニ於テ認可ス

區會議員

ビニール署名

書記

ナ

ド、ベルス、ローベ、署名

右縣會常置委員ニ於テ檢案ス

一千八百八十二年十二月二十三日比律悉ニ於テ

議長

ゴボア、トルム署名

命ニ依リ

縣會書記

ハ、ル、ビ、チ、署名

右一千八百八十三年一月十一日ノ省令ニ付録スルカ爲ニ認可ス

千八百八十三年一月十七日比律悉ニ於テ

內務大臣

セ、ロラン、マヤクマン署名

ガ工業學校

規則○學科課目

内務大臣ハ

一千八百八十一年十二月二十七日ガ區會ニ依テ變更セシ如クガ
工業學校ノ編成規則ヲ檢案シ、一千八百八十一年八月三日該學校
ノ管理局ニ依テ決定セシ共進會并試驗ニ關スル規則ヲ檢案シ該學
校諸學科ノ細課目ヲ檢案シ

左ニ布達ス

第一條 該學校ノ編成規則、共進會及試驗ニ關スル規則并諸學科ノ細
課目ハ之ヲ認可シ左ニ付録スルモノトス

第二條 東フランドル縣知事ハ現布達ノ執行ヲ任セラル、モノトス
一千八百八十二年一月二十五日比律悉ニ於テ

セー、ロラン、ジャンクマン署名

編成規則

カン市街ノ區會ハ

千八百六十年十月二十六日附内務大臣ノ布達ニ依テ認可セラレタ
ル全年十月六日付ノカン工業學校ノ編成規則ヲ再檢シ

左ニ決定ス

左ニ掲記スル所ノ規則ハ該學校ノ爲メニ之ヲ可決セリ

第一章

第一條 該工業學校ノ教育ニ含ムヘキモノハ左ノ如シ

第一 代數ノ大初歩并幾何學初歩、特ニ工業、製圖、測量及水準ニ付テ
其應用ニ係ル

第二 畫法幾何學(殊ニ機械圖畫、石ノ裁切及材木ノ切組等)付其直
接ノ應用ニ係ル

第三 諸機械、金屬、木、石ニ於ケル組立、器具機械類ノ組立并工業製作
場ノ構造ニ應用スル描線術學

第四 粧飾畫學(是レ諸花、真寫畫法、摸樣形紙及粧飾品ニ應用スル粧
飾畫、諸花、付屬物等群集ノ組合、ダンテール、掛入類及縫箱用圖畫、ア
ンシエンス、セルニス、物ノ形、摸樣、紐、厚織、絹、紐等ノ圖畫、各種緞子織、
毛氈、紗、天鵝絨、等ノ圖畫ヲ含ムモノトス)附織機ニ應用スル爲メ必
要ナル研究

第五 物理學初歩附蒸氣ノ理論ニ關スル殊別ノ發達(水及蒸氣ニテ
暖ムル)爐及烟筒ノ築造、電信、時辰儀、流電鍍金術、原動器等ニ電氣
特別ノ應用ニ於ケル理論、光ノ理論及其應用、眼鏡、寫影術等

第六 工業重學初歩、生活物及不生活物ノ原動ニ關スル特別ノ研究、
活力、風、水、車、水車、臥輪水車、唧筒、排水器等ノ作業

第七 蒸氣原動ノ知識、固定及運動機械、機關車及蒸氣船、蒸氣生產器
ノ据付及扱方并之レヨリ起ルヘキ不慮ノ災害ニ係ル特別ノ研究、
此般ノ制定ニ係ル律令及布達

第八 織物材料ノ作業ニ使用スル諸機械ノ知識、綿、黃麻、大麻、毛、蠶絲

ノ機械上ノ調製、其舊新方法ノ比較、綿、黃麻、毛等ノ製絲法等
各種模樣織物并無地織物ニ係ル手織法附總テノ付屬作業(マルシニ
「シヤフカアル」物ノ名織等ノ簡單ナル織機、機械織ノ方法及之ニ付屬
セル種々ノ器具

(注意)本項ノ學科ハ糸ヨリ製造シテ賣買的ノ完備セル織物ト爲
スニ至ル迄ノ總テ機械上ノ作業ヲ含ムモノトス

第九 特ニ當地方ノ工業(即チ製粉業、麵包製造業、澱粉製造業、麥酒釀
造業、蒸溜業、砂糖製造及精製業、製糸業、油、石鹼、假漆、硫酸製造等)ニ應
用スルノ目的ニ於テ有機化學及無機化學初歩

第十 織緯及織物材料、織物等ノ化學作業○黃麻及大麻ノ濕蒸、種々ノ
方法、絲ノ垢拔(ソウジ)及洗晒○脂毛ノ扱方○木綿紐及毛織紐ノ染法○各種
織物ノ洗晒及練製○木綿、金巾、毛織物及絹織物等ノ染法及形付法

第十一 工業經濟

第十二 工商用ノ簿記法初歩

第十三 獨語學及英語學

第二條 書庫、舍密室、織製場、寫真場并必要ナル器物ハ本校ノ教育ヲ完
全スルカ爲メ用ユヘキモノトス

第三條 授業ハ課目ニ違フテ佛語又ハフランドル語ヲ以テ之ヲ爲ス
ヘシ而シテ學科ハ生徒ノ修學四ヶ年ニ於テ或ハ舍密工業、或ハ重學技術
或ハ織物作業及工業書學ノ準備ヲ爲シ得ヘキ樣配合編成スヘキモノ
トス

第二章 管理、役員、職掌

第四條 本校ノ管理及監督ハ左ノ人員ヨリ成ル事務局ニ委任セラレ
ルモノトス

第一 當然議長タルヘキ本區々長又ハ其委任ヲ受ケタル本區書記

第二 六名ノ職員(內三名ハ內務大臣ヨリ又三名ハ區會ヨリ任命セ
ル)

該局員ハ之ヲ三ヶ年毎ニ新更スヘシ而シテ其退職議員ハ復タ任命セラ

ル、トナ得
 該局議員ノ職務ハ無給ナリトス
 東フランドル縣知事ハ總テ該局集會ノ通知ヲ受ケ又自ラ其招集ヲ命
 スルヲ得而シテ該縣知事ハ其會議ニ出席スル時毎ニ議長タルヘキモ
 ノトス
 第五條 本校所屬ノ役員ハ校長、教師、監事及助手ヨリ成ルモノトス
 第六條 校長及教師ハ管理局ノ意見ニ依リ區長及區書記ノ意見ヲ問
 フタル上、内務大臣ヨリ命セラレヘキモノトス而シテ其俸給ハ其任命ノ
 辭令ニ依テ定メラルヘシ
 管理局ハ校長及教師ノ免職ヲ内務大臣ニ稟請スルヲ得
 管理局ハ校長ノ意見ヲ問フタル上、監事又ハ助手并事務掛ノ任免ヲ爲
 スヘシ
 第七條 管理局ハ議長ノ招集ニ應ジ又之レナキニ於テハ議員三名ノ
 請求ニ應ジテ集會ヲ開クヘシ

總テ會議中可否半數ニ分ル、ノ場合ニ於テハ議長ノ發言ニ依テ決ス
 ヘシ
 第八條 管理局ハ歲出入豫算表ノ草案ヲ調製シ、決算ヲ決定シ且修學
 及記律上ノ監察ヲ爲スモノトス
 歲出入豫算表并決算書ハ區會及内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第九條 管理局議員ハ必要ナリト判知スル時毎ニ教場ヲ巡檢シ、生徒
 ニ向テ質問ヲ爲シ又ハ質問ヲ爲サシメ而シテ課目ノ正シク注意セラレ
 、ヤ又規則ノ能ク實行セラル、ヤヲ監察スヘシ斯テ該議員ハ其巡檢
 中可成的校長ヲシテ先導ヲ爲サシムヘシ
 第十條 管理局ハ毎年學科ヲ閉鎖シタル後本校ノ情態ニ係ル觀察ノ
 事件ニ付決議スヘキ特別ノ會議ヲ開クヘシ而シテ校長及教師ハ此集會
 ニ出席シテ教育并紀律上ニ要スヘキ總テノ改良法ニ付其意見ヲ知ラ
 シムヘシ
 管理局ノ該會議ニ係ル詳細ノ始末書ハ特別ノ帳簿ニ記載スヘキモノ

トス
 第十一條 管理局ハ毎年本校ノ利益ニ於テ設ケラルヘキ方法ヲ示シ
 テ以テ本校ノ情態ニ係ル報告ヲ作り區會ニ進達スヘシ而シテ此報告書
 ニハ第十條ニ於テ指定シタル會議始末書ノ寫一通ヲ付録セシムルヲ要
 ス
 區務廳ハ此書類ノ寫ヲ其注記(若シ之レアラハ)ト共ニ內務大臣ニ進達
 スヘシ
 第十二條 管理局ノ意見ニ依リ內務大臣ヨリ命セラレタル一名ノ會
 計書記ハ筆記會計及文書保存ノヲ擔任スヘキモノトス
 第十三條 管理局ハ其事業ノ順序ヲ定メシカ爲メ其規則若シ之レア
 ラハ)ヲ決定スヘシ而シテ該規則ハ之ヲ內務大臣ニ通知スヘキモノトス
 第十四條 本校ノ役員中獨リ校長ノミ管理局ト互ニ通信シテ事務上
 直接ノ關係ヲ有スルモノトス
 第十五條 校長ハ修學上ノ指揮ト教育及紀律ニ關スル諸規則ノ舉行

トシ擔任スヘシ而シテ校長ハ陳列品及器物ノ保存ヲ委任セララルヘキモノ
 トス
 第十六條 教員及生徒ハ校長ニ隸屬スルモノトス
 第十七條 校長ノ教師ノ意見ヲ問フタル上決定シタル學科ノ年々
 ノ課目ハ九月前ニ於テ管理局及內務大臣ノ認可ヲ受クヘキモノト
 ス
 第十八條 校長ハ教師ト協議シ且管理局ノ認可ヲ經テ教場取締ノ爲
 ニ内部順序ノ規則ヲ決定スヘシ尤モ此規則ハ平常教場内ニ揭示スヘ
 キモノナリ
 第十九條 校長ハ代理者必要アルノ場合ニ於テハ管理局ヨリ委任セ
 ル一名ノ該局議員ニ依テ假ニ代理セシムヘキモノトス
 第二十條 本校ノ役員ハ校長ヲ經テ其所屬ノ官衙ト通信ヲ交通スヘ
 シ但シ校長ハ如何ナル請求書又ハ書類ニモ其意見書ヲ添ユ可キモノ
 トス